

# 事業報告書

Annual Report

2022年度



－ 挑 戦 す る 知 性 －

学校法人 東京女子大学

## 2022 年度事業報告にあたって

学校法人東京女子大学  
理事長 安田 隆二

2022 年度の事業報告にあたり、関係各位の祈りと協力に支えられ、2021 年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染対策を行いながら、計画した事業を滞りなく実施できましたことを、深い感謝をもってご報告申し上げます。

コロナ禍という困難を抱える今、こうした時代だからこそ、私たちは、未知なる課題に立ち向かう力をもった学生を育成することが、本学の使命であると思っております。100 年以上の実績があるリベラルアーツ教育をさらに深化させ、18 歳人口の減少を迎える 2024 年、今後の本学の発展の契機となる 2025 年と、2 年度にわたって実施する教学改革の準備を着実に進めることができました。

キャンパスの状況としては、対面授業が行われ、授業以外の活動も再開いたしました。美しいキャンパスに学生の姿が戻ってきたことはこのうえない喜びと言えます。一方、コロナ禍で学んだオンライン授業という手法については、学内インフラの整備を進め、新たな教育的価値を生み出していくことが期待できます。今までの活動を振り返り、今後の第 3 期キャンパス整備計画に活かしていきたいと考えております。

2022 年度は、2020 年度からの 5 年間を実施期間とする「学校法人東京女子大学中期計画」の第 3 年度として、それぞれの専門を越え、分野横断的にカリキュラムを開くことをめざす教学改革をはじめ、「東京女子大学グランドビジョン」に掲げた「開かれた大学」の実現に向けて多くの活動を行いました。本事業報告書により、その取り組みをご覧頂けましたら幸甚に存じます。

AI 技術の急速な進歩と発展により、社会活動は大きく変化しています。今後も、伝統を守りつつ、データサイエンス、英語運用力の強化等のもとより、新しい時代にふさわしい教育、研究、大学運営に取り組み、中期計画に掲げたビジョンを実現してまいります。引き続きご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

---

## 建学の理念・教育目標

---

学校法人東京女子大学は、教育基本法及び学校教育法に従い女子高等教育を行うことを目的とし、キリスト教の精神をもって人格形成の基礎とする東京女子大学を設置しております。

1918年に創立して以来、「キリスト教を教育の根本方針となし、女性に高度の教養を授け、専門の学術を教授研究し、真理と平和を愛し人類の福祉に貢献する人物を養成すること」（学則第1条）を教育目標として、今日まで歩んでまいりました。本学のキリスト教を基盤としたリベラル・アーツ教育は、揺るぎない世界観、歴史観、死生観を育み、社会、国家、世界のなかで自己を確立して生きてゆく人格を育てる教育です。

---

## 東京女子大学グランドビジョン

---

創立100周年を迎えた東京女子大学が、建学の精神であるキリスト教の精神に基づく人格教育により、21世紀の人類・社会に貢献する女性を育てるために定めたものです。「Ⅰ 東京女子大学グランドビジョン」と「Ⅱ 育成する人物像」で構成されます。

(2019年2月改定)

### Ⅰ 東京女子大学グランドビジョン

- ① キリスト教の精神に基づき、人類・社会の問題解決に貢献する女性を育てる。
- ② グローバル化・高度情報化した21世紀の社会を切り拓き、国際社会で活躍する女性を育てる。
- ③ 教育内容・教育方法の改革に取り組み、主体的に学ぶことを学び、学び続ける姿勢をもった女性を育てる。
- ④ 「専門性をもつ教養人」育成の原点である本学のリベラル・アーツ教育を、現代社会に活かす形で充実させる。
- ⑤ 大学院教育では、専門領域における研究能力と深い学識を備え、同時に豊かな教養と広い視野を合わせ持つ「教養を備えた高度な専門的職業人」を育成する。
- ⑥ 女性の自己確立と、女性の生涯にわたるキャリア構築を支援する。
- ⑦ ステークホルダーとの関係を強化し、社会との結びつきを強め、社会から支持される大学を実現する。
- ⑧ 学習環境を整備し、現代の高等教育機関にふさわしい施設・設備を確保する。
- ⑨ 財政基盤を強化し、教育・研究を支える基盤を強める。

### Ⅱ 育成する人物像

1. 知力（知識）を行動力にするリーディングウーマン  
— 論理的思考に基づく判断力・決断力・実行力を備えた女性、他者を尊重し協働できる女性—
  - ・多様性を受容し包摂する力を育成する教育
  - ・異なる考えや意見を受け入れる力を育成する教育
  - ・問題解決型教育（PBL）の展開
2. 国際的な視野をもった地球市民としての女性
  - ・グローバルビジョン育成のための教育の推進
  - ・国際的視野を育む教育環境の整備
  - ・多文化共生社会への理解を深める教育
  - ・英語教育の強化（キャリア・イングリッシュ・アイランド事業等の推進）
  - ・英語による授業の展開
  - ・留学・海外体験の奨励・促進
3. 専門性と幅広い教養をもった女性
  - ・本学独自のリベラル・アーツ教育の一層の推進
  - ・文理融合型の教育の展開
  - ・専門教育の充実による高度な専門的職業人および研究者の育成
  - ・体系性・順次性をもった専門教育の推進
  - ・幅広い視点から考える力を養う全学共通カリキュラムの充実

4. キャリアをカスタマイズする女性
  - 生涯にわたって主体的に学び続け自らキャリアを構築する女性—
  - ・正課教育と正課外教育の連携によるキャリア教育の充実
  - ・一人ひとりの生涯にわたるキャリア構築支援
  - ・一人ひとりの個性に合ったキャリア支援の充実
5. 21世紀の高度情報化社会に対応できる女性
  - ・高度のICTリテラシーを身につける教育
  - ・データ・証拠に基づく理解・課題解決能力の育成

---

## 東京女子大学方針

---

東京女子大学が掲げる教育理念、学部や研究科の目的を達成するために、本学の諸活動の指針として、2014年9月に東京女子大学方針を定めました。

(2019年2月改定)

### 〔大学の求める教員像および教員組織の編制方針〕

#### 求める教員像

(大学)

キリスト教の精神に基づきリベラル・アーツを柱とする女性のための高等教育を推進していくため、本学の建学の精神、教育理念・目的を理解し、専門知識と教育力、研究能力を有し、社会貢献への意欲を持ち、管理運営にも主体的に関わることのできる教員。

(学部)

- 1) 学部の目的、人材養成の目的を達成させるために、教育研究活動に積極的に取り組む教員。
- 2) 教育の質の向上に努め、積極的に教育に関わることができる教員。
- 3) 専門教育とともに、リベラル・アーツ教育の柱である全学共通教育にも熱心に取り組む、全人的教育に取り組むことができる教員。

(研究科)

人間科学研究科

- 1) 博士前期課程・後期課程における教育目的の達成に十分な人間科学の高度な研究力と教育力を有する教員。
- 2) 教養を備え、研究倫理を尊重する教員。
- 3) 人間科学の最先端の分野において高度な研究を行い、その専門分野の知識を現代社会に活かすかたちで教授できる教員。
- 4) 人間科学における高度な学問の成果を学際的な幅広い視点から教授できる教員。

理学研究科

- 1) 博士前期課程・後期課程における教育目的の達成に十分な数理科学の高度な研究力と教育力を有する教員。
- 2) 教養を備え、研究倫理を尊重する教員。
- 3) 数理科学の最先端の分野において高度な研究を行い、その専門分野の知識を活かして社会に貢献できる教員。
- 4) 数理科学における高度な学問の成果を、幅広い視点から教授できる教員。

#### 教員組織の編制方針

(学部)

- 1) 文部科学省令大学設置基準を満たし、教育が適正に行われる教員数を配置する。
- 2) 教員の募集・任免・昇任は、公平かつ透明性を保つ。
- 3) 年齢構成の均衡を図る。
- 4) 女性のキャリアを支援し、同等の能力を有する場合は女性の教員を積極的に登用する。学生に対するロールモデルとしての評価を勘案する。

(研究科)

人間科学研究科

- 1) 研究科の各専攻における教育目的を達成するために、教育研究活動に積極的に取り組む教員を配置する。

- 2) 大学院担当教員に関する選考基準を明確にし、厳正な資格審査手続による教員人事を行う。
- 3) 人文・社会科学の諸分野において、専門分野のみならず学際的な視点から教育・研究を発展させるような教員組織を編成する。

#### 理学研究科

- 1) 研究科における教育目的を達成するために、教育研究活動に積極的に取り組む教員を配置する。
- 2) 大学院担当教員に関する選考基準を明確にし、厳正な資格審査手続による教員人事を行う。
- 3) 数理科学における最先端の学問と科学技術の発展に迅速に対応した教育・研究を可能とする教員編成を行う。

#### 〔学生の支援に関する方針〕

- 1) 自主的に学ぶ姿勢を育むための教室外学習、学生相互の学習および課外活動を支援し、学習環境を整備する。  
(学習支援)
- 2) 奨学金制度を有効に運用し、経済的に安定した学修環境を保証する。(経済的支援)
- 3) 学生の生活全般に関わる学内相互の全学的な連携を強化することによって、学生の心身の健康を維持し、良好な人間関係を保つための、支援体制を整備する。(生活支援)
- 4) 進路支援を含む女性のキャリア構築に関する多様な支援体制を実施することによって、学生・卒業生が生涯にわたってキャリアを追求することを可能にする支援を行う。(キャリア支援)

#### 〔教育研究環境の整備に関する方針〕

- 1) 学修の質の向上と、より良い教育・研究成果をあげるため、教育・研究環境を充実する。
- 2) キャンパス内の自然環境の保持及び安全・快適な施設・設備の計画的な維持管理体制を強化する。
- 3) 知の拠点として水準の高い図書館を維持し、学術情報サービスを向上させる。

#### 〔社会連携・社会貢献に関する方針〕

- 1) 高等教育・研究機関として、蓄積された知見及び最新の研究成果を学外に還元することで、地域住民の文化的教養の啓発に寄与する。
- 2) 本学の施設および教育資源を活用し、卒業生および地域の女性のキャリア構築支援を行う。
- 3) 専門的な学識を通じて、政策形成や国・自治体などの課題解決に貢献する。

#### 〔管理運営に関する方針〕

- 1) 関係法令及び学内諸規程に基づいた、組織及び業務の適正な管理運営を推進する。
- 2) 各組織の権限と責任、意思決定プロセスを明確に定める。
- 3) 教育理念・目的達成のために、ガバナンスとマネジメントを強化し、学長のリーダーシップを確立する。
- 4) 教育研究活動等の向上と発展のため、教職員に対する研修を恒常的、計画的に推進する。
- 5) 事務職員による教育研究支援機能、法人運営機能を強化する。
- 6) 教育研究活動を安定的に支えるため、中長期的な財務計画を策定し財政基盤を確立する。

#### 〔大学の内部質保証に関する方針〕

- 1) 自己点検・評価体制、PDCA サイクルの機能強化を図る。
- 2) 外部評価により、自己点検・評価の妥当性・客観性を担保する。
- 3) 情報公開を通して、透明性を確保し、社会に対する説明責任を果たす。

---

## 教育方針

---

本学では、建学の理念と教育目標に照らして、以下の教育方針を定めています。

### ▶現代教養学部

#### アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）（2018年度以降入学者に適用）

東京女子大学では、その教育理念、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）のもと、自ら考え行動しようとする学習意欲の高い女性を求めます。

多様な経歴・目的意識をもった女性に広く門戸を開いています。

#### 国際英語学科

本学科は、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に定める教育を受けるために高等学校の教育課程の内容を幅広く修得し、次に掲げる知識・技能、能力、目的意識・意欲を備えた女性を求めます。

- (1) 英語の基礎的運用能力と自分の考えを英語で表現する力を身につけている。
- (2) 日本語の的確な理解力や表現力を身につけている。
- (3) 歴史や現代社会についての基礎的な知識や数学的な思考力を身につけている。
- (4) 知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。
- (5) 国際的共通語としての英語とその言語文化の広がりに関心を持ち、英語の実践的かつ高度な運用能力を活かして世界に向けて発信し、社会に貢献したいという意欲がある。

#### 人文学科

本学科は、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に定める教育を受けるために高等学校の教育課程の内容を幅広く修得し、次に掲げる知識・技能、能力、目的意識・意欲を備えた女性を求めます。

- (1) 日本語（古典も含む）の読解力と、それに基づいた確かな表現力、及び、外国語（英語）の基礎的な運用能力を身につけている。
- (2) 歴史や現代社会についての基礎的な知識や数学的な思考力を身につけている。
- (3) 知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。
- (4) 人文学（哲学・文学・史学）に関心を持ち、人文学に関する知識と能力を活かして、社会に貢献したいという意欲がある。

#### 国際社会学科

本学科は、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に定める教育を受けるために高等学校の教育課程の内容を幅広く修得し、次に掲げる知識・技能、能力、目的意識・意欲を備えた女性を求めます。

- (1) 日本語の的確な理解力や表現力、外国語（英語）の基礎的な運用能力を身につけている。
- (2) 現代社会や歴史についての基礎的な知識や数学的な思考力を身につけている。
- (3) 知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。
- (4) グローバルな視野をもって地域社会から国際社会に至る幅広い問題に関心を持ち、社会科学に関する知識と能力を活かして、社会に貢献したいという意欲がある。

#### 心理・コミュニケーション学科

本学科は、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に定める教育を受けるために高等学校の教育課程の内容を幅広く修得し、次に掲げる知識・技能、能力、目的意識・意欲を備えた女性を求めます。

- (1) 日本語の的確な理解力や表現力、外国語（英語）の基礎的な運用能力を身につけている。
- (2) 現代社会や歴史についての基礎的な知識や数学的な思考力を身につけている。
- (3) 知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。
- (4) 人間の心理と行動、コミュニケーションについて興味を持ち、心理学やコミュニケーションに関する知識と能力を活かして、社会に貢献したいという意欲がある。

#### 数理科学科

本学科は、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に定める教育を受けるために高等学校の教育課程の内容を幅広く修得し、次に掲げる知識・技能、能力、目的意識・意欲を備えた女性を求めます。

- (1) 数学や理科に関する基礎的な知識と数学的な思考力を身につけている。

- (2) 知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。
- (3) 日本語の理解力や表現力、外国語（英語）の基礎的な運用能力を身につけている。
- (4) 数学や情報科学に興味を持ち、数理科学的知識と柔軟な論理的思考力及び技術を活かして、社会に貢献したいという意欲がある。

### **カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）**（2018年度以降入学者に適用）

東京女子大学は、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を修得させるために、以下の方針に基づいて、全学共通カリキュラムと学科科目を2つの柱とするリベラル・アーツ教育を行います。

#### **【教育課程の編成】**

1. 広範で多様な基礎的知識と基本的な学習能力の獲得のために、「リベラル・スタディーズ」と「アカデミック・スキル科目」の2つの科目群からなる全学共通カリキュラムを編成する。
2. 専門的な方法論と知識を学ぶために、学科科目を体系的かつ順次的に編成する。
3. 授業科目の到達目標・内容に応じた多様な形態の授業科目（講義科目、演習科目、実習科目）を配置する。

#### **【教育内容・方法】**

4. 実践的な議論を通じて、知識の活用能力、論理的思考力、問題発見・解決能力、コミュニケーション能力、他者を尊重し協働できる力を養うために、全学年を対象に、参加型の少人数教育を行う。
5. 本学における学修の基盤となる基礎学力及び学習方法を習得し、主体的な学びの姿勢を養うために、アクティブ・ラーニングによる初年次教育を行う。
6. 女性の自己確立とキャリア探求の基礎をつくるために、女性学・ジェンダー的視点に立つ教育を行う。
7. 自分の専攻分野以外の学問領域への関心を広げ、学際的視点を養う全学共通の教育プログラムとして、日本語教員養成課程、キャリア・イングリッシュ課程、副専攻を設置する。
8. 教育成果の段階的な測定とそれに基づく適切な学習指導を行うため、4年次学生を、卒業研究を行うことが可能な者と位置づけ、全学科で3年次から4年次への進級条件を設ける。

#### **【学修成果の評価】**

9. 学士課程の集大成としての卒業研究（卒業論文、Final Presentation、講究）を全学科必修とし、目標とする資質・能力を身につけることができたかを、ループブックを用いて評価する。
10. 本学のリベラル・アーツ教育の学修成果について、直接的指標と間接的指標を用いて、多角的観点から評価を行う。

### **ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）**（2018年度以降入学者に適用）

東京女子大学は、建学の精神であるキリスト教精神に基づくリベラル・アーツ教育により、「専門性をもつ教養人」として人類・社会の問題解決に貢献し得る女性を育てるために、以下の資質・能力を身につけ、かつ、学則に定める所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学位（学士）を授与します。

1. 人間・社会・自然に対する理解を深め、広範で多様な知識を身につけている。
2. 自分の専攻分野に関する方法論と専門知識を身につけ、さらに自分の専攻分野に隣接する分野について基本的な内容を理解している。
3. 知識を活用し、論理的思考力に基づいて、問題を発見し、解決する能力を身につけている。
4. 他者の表現を適切に理解し、自らの考えを論理的に表現し、建設的な議論を行うことができるコミュニケーション能力を身につけている。
5. 異なる考えや意見を受け入れる力を身につけ、多文化共生社会への理解を深め、他者を尊重し協働できる力を身につけている。
6. 主体的に学び続け、自己を確立し、自らのキャリアを構築する姿勢を身につけている。

## ▶ 大学院 博士前期課程

### **アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）**（2020年2月改定）

東京女子大学大学院は、建学の精神であるキリスト教の精神に基づく学問研究および教育の機関として、人間科学研究科と理学研究科を設置しています。入学までに修得した学術教養に基づき、専門分野の研究を深め、かつ、人類の文化と社会に貢献しうるにたる人格と教養を備えた高度な専門的職業人の育成を目的としています。

本大学院は、上記の建学の精神および教育目的に共感し、専門分野の基礎的知識と積極的なコミュニケーション能力を備え、研究と問題分析を主体的に行う高い意欲を持つ学生を広く求めます。

入学選考は、筆答試験・口述試験および研究計画書・学位論文等出願書類の総合判定により行います。本大学院が定めるディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身につけることができる学力・適性や意欲を多角的に評価し判定します。

## 人間科学研究科

### 人間文化科学専攻

本専攻の特色は、人間の営みと知の所産であるさまざまな文化の諸相を解明する点にあります。人文科学の諸分野に関する資料読解力と問題分析力を備えた研究者および専門的職業人の育成を目指しています。人文科学の基本的な方法論と知識を身につけ、本専攻の目的を理解したうえで、以下のような意欲を持つ人を求めます。

1. 学部で学修した人文科学の諸分野に強い興味を持ち、さらに専門的に深く学びたい人
2. 宗教・国語・外国語（英語）・社会・地理歴史・公民の中学校・高等学校教諭専修免許状を取得し、高い専門性を持った教員となることを志望する人
3. 人文科学の諸分野の研究を通じて、社会に貢献したいという熱意のある人

### 人間社会科学専攻

本専攻の特色は、現代社会の人間が直面しているさまざまな問題に対して、人間科学や社会科学の知識・方法論を用いて研究する点にあります。事実に基づき科学的に解決策を提案し、研究成果を国内外に発信する研究者および本専攻で獲得した知識や方法を用いて社会に貢献する専門的職業人の育成を目指しています。研究対象とする分野について基礎的な知識を身につけ、本専攻の目的を理解したうえで、以下のような意欲を持つ人を求めます。

1. 主体的に学び、自らの専攻分野の専門知識と方法論を深めようとする人
2. 学際的な視点を獲得するために、周辺領域に対しても知的関心を持つ人
3. 人間科学や社会科学の専門性を活かして国内外で活動し、社会に貢献したいという熱意のある人

## 理学研究科

### 数学専攻

数理学とは、さまざまな現象に秘められた数理的な構造の発見と分析を通じて、その現象の本質を解明する学問です。本専攻の特色は、数理学において、分析に必要な「専門性」と同時に、発見に必要な「幅広い視野」を重視する点にあります。専門性と幅広い視野を持ち、数理科学的諸問題に対して柔軟に対応できる論理的思考力と分析力を備えた研究者および専門的職業人の育成を目指しています。数理学分野の基礎としての数学に関する基本的な知識を身につけ、本専攻の目的を理解したうえで、以下のような意欲を持つ人を求めます。

1. 学部で学修した数学や数理学諸分野に強い興味を持ち、さらに専門的に深く学びたい人
2. 数学の中学校・高等学校教諭専修免許状を取得し、高い専門性を持った教員となることを志望する人
3. 数学や数理学を通じて、社会に貢献したいという熱意のある人

## カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）（2020年2月改定）

東京女子大学大学院はディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身につけた「教養を備えた高度な専門的職業人」を育成するために、以下の方針に基づく教育を行います。

### 人間科学研究科

#### 人間文化科学専攻・人間社会科学専攻

<教育課程の編成>

1. 広い学問的視野と柔軟な学問的姿勢を獲得し、各研究分野に共通する研究能力を育成するために、専攻共通科目を編成する。
2. 各分野の研究方法に習熟し、専門性を深化させるために、研究分野科目（コースワーク）を編成する。
3. 科目の体系性および順次性を確保するために、研究分野科目に基礎科目と専門科目を設置する。
4. 専門的研究能力を向上させ、学位論文作成を可能にするために、専攻共通の専門科目として「論文指導演習」（リサーチワーク）を設置する。
5. 深い教養を備えるとともに、学際的な研究を可能にするために、他専攻の科目を履修することができるカリキュラムを編成する。

#### <教育内容・方法>

6. 学生が自主的・主体的な研究能力を身につけるために、参加型の少人数の演習形式の授業、事前に与えられた課題に取り組むことを前提とした反転授業を実施する。
7. 柔軟で開かれた知見を獲得させるために、副指導教員制を設定する。
8. 適切な指導を行うために教育成果の段階的測定、それに基づく客観的評価を行う。
9. 学位論文指導を計画に沿って実施するために、学生と教員および教員間で論文作成および論文指導に関する計画を共有する。

#### <学修成果の評価>

10. 博士前期課程の集大成としての修士論文を必修とし、ディプロマ・ポリシーで掲げた能力を身につけることができたか評価するために、複数の評価者による論文審査および最終試験を実施する。

### 理学研究科

#### 数学専攻

##### <教育課程の編成>

1. 科目の体系的および順次性を確保するために、専門科目（コースワーク）に講義と講究を設置する。
2. 専門的研究能力を向上させ、学位論文作成を可能にするために、「論文指導演習」（リサーチワーク）を設置する。
3. コースワークに関しては、数理科学のさまざまな問題に柔軟に対応できるような思考力と分析力を育成し、数理科学に対する広い視野を身につけさせるため、「理論数理学」と「応用数理学」の2研究分野に編成する。専門的な方法論と知識を体系的に学ばせるため、それぞれの研究分野を3つの小領域に分けて授業科目を設置する。
4. リサーチワークに関しては、自発的な学修を促し、独自の課題発見能力と問題解決能力を養成する。

##### <教育内容・方法>

5. 研究に対する視野を広げ、数理科学のさまざまな問題についての理解を深めさせるために、専門科目の講義においては理論と応用の交流を強調する。
6. それぞれにおける基本的知識・方法を体系的かつ効果的に修得させると同時に、問題への異なるアプローチに触れさせるために、複数小領域の学修を促す。
7. 2年間の数理学講究において、専門領域に対する研究を深め発表能力を高めるために、学生と意見を交換しつつ首尾一貫した指導を行う。
8. 広い視野と豊かな見識を養うために、一人の学生に対して指導教員と副指導教員をおく。
9. 適切な研究指導を行うために、複数の指導教員により、教育成果の段階的かつ客観的測定を行う。
10. 学位論文指導を計画に沿って実施するために、学生と教員および教員間で論文作成および論文指導に関する計画を共有する。

##### <学修成果の評価>

11. 博士前期課程の集大成としての修士論文を必修とし、ディプロマ・ポリシーで掲げた能力を身につけることができたか評価するために、博士前期課程担当教員全員による論文審査および最終試験を実施する。施す。

### ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）（2020年2月改定）

東京女子大学大学院は、建学の精神であるキリスト教の精神に基づく学問研究および教育の機関として、研究者にふさわしい人格を陶冶し、教養を備えた高度な専門的職業人を育成するために、以下の能力を身につけ、かつ、学則に定める所定の単位を修得し、修士論文を提出してその審査および最終試験に合格した学生に、学位（修士）を授与します。

### 人間科学研究科

#### 人間文化科学専攻

1. 自らの専攻分野に関する方法論と専門知識を身につけ、さらに学際的視点からの研究を可能にするため、他分野の方法論と専門知識を一定程度身につけている。
2. 人文科学の専門知識を自立的に運用するための資料読解力・精査力および問題分析力を身につけている。
3. 研究成果を国内外に発信する表現力と建設的な議論を行うことができるコミュニケーション能力を身につけている。
4. 高度な専門的職業人あるいは独創性のある研究者として社会に貢献することを目指して、主体的に学び続け、自己を確立し、自らのキャリアを構築する能力を身につけている。

## 人間社会科学専攻

1. 自らの専攻分野に関する方法論と専門知識を身につけ、さらに学際的視点からの研究を可能にするため、他分野の方法論と専門知識を一定程度身につけている。
2. 人間科学や社会科学の専門知識を自立的に運用するための調査研究能力および問題分析力を身につけている。
3. 研究成果を国内外に発信する表現力と建設的な議論を行うことができるコミュニケーション能力を身につけている。
4. 高度な専門的職業人あるいは独創性のある研究者として社会に貢献することを目指して、主体的に学び続け、自己を確立し、自らのキャリアを構築する能力を身につけている。

## 理学研究科

### 数学専攻

1. 自らの専攻分野に関する方法論と専門知識を身につけ、さらに学際的視点からの研究を可能にするため、他分野の方法論と専門知識を一定程度身につけている。
2. 数理科学の専門知識を自立的に運用するための能力および問題分析力を身につけている。
3. 研究成果を国内外に発信する表現力と建設的な議論を行うことができるコミュニケーション能力を身につけている。
4. 高度な専門的職業人あるいは独創性のある研究者として社会に貢献することを目指して、主体的に学び続け、自己を確立し、自らのキャリアを構築する能力を身につけている。

## ▶ 大学院 博士後期課程

### アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）（2020年2月改定）

東京女子大学大学院は、建学の精神であるキリスト教の精神に基づく学問研究および教育の機関として、人間科学研究科と理学研究科を設置しています。入学までに修得した学術教養に基づき、専門分野の研究を深め、かつ、人類の文化と社会に貢献しうるにたる人格と教養を備えた高度な専門的職業人の育成を目的としています。

本大学院は、上記の建学の精神および教育目的に共感し、専門分野の十分な知識と積極的なコミュニケーション能力を備え、研究と問題分析を主体的に行う高い意欲を持つ学生を広く求めます。

入学選考は、筆答試験・口述試験および研究計画書・学位論文等出願書類の総合判定により行います。本大学院が定めるディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身につけることができる学力・適性や意欲を多角的に評価し判定します。

## 人間科学研究科

### 人間文化科学専攻

本専攻の特色は、「人間の文化」にまつわる多様な諸相を空間的、共時的、通時的に捉え、高い専門性をもって解明しようとする点にあります。対象とする時代・地域・言語の研究における高度な方法論と専門知識を身につけると同時に、学際的な視点から、隣接する他分野への関心と、学術上の貢献をなす高い研究能力を培うことを目指しています。専門分野の十分な知識を身につけ、本専攻の目的を理解したうえで、以下のような意欲を持つ人を求めます。

1. 人文科学の諸分野に対する研究を行った経験を持ち、さらに研究を深めたい人
2. 人文科学の諸分野の高度な研究を通じて、社会に貢献したいという熱意のある人

### 生涯人間科学専攻

本専攻の特色は、人間の生涯にわたる諸問題を人間科学や社会科学の知識・方法論を用いて研究する点にあります。この研究する力に加え、独自の視点で問題を発見し、高度な分析により獲得した知見を国内外に発信し、社会に貢献できる力を育成することを目指しています。専門分野の十分な知識を身につけ、本専攻の目的を理解したうえで、以下のような意欲を持つ人を求めます。

1. 専攻分野の研究を行った経験を持ち、さらに研究を深めたい人
2. 周辺領域に知的関心を持ち、学際的な視点を持った研究を志している人
3. 人間科学や社会科学の高度な専門性を活かして国内外で活動し、社会に貢献したいという熱意のある人

## 理学研究科

### 数学専攻

本専攻の特色は、さまざまな現象に秘められた数理的な構造の発見と分析を通じて、その現象の本質を解明しようとする数理科学において、特化した専門研究の深化と広い学問的視野の獲得を共に重視する点にあります。幅広

い視野、学問的視野を養うと同時に、数理科学の深い探求に必要な専門的知識を身につけ、かつ学術上の貢献をなす高い研究能力を培うことを目指しています。数理科学分野の十分な知識を身につけ、本専攻の目的を理解したうえで、以下のような意欲を持つ人を求めます。

1. 数理科学分野において高度な研究を行った経験を持ち、さらに研究を深めたい人
2. 数理科学の高度な研究を通じて、社会に貢献したいという熱意のある人

## **カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）**（2020年2月改定）

東京女子大学大学院はディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身につけた「教養を備え、学術上の貢献をなす高度な専門的職業人および独創的な研究者」を育成するために、以下の方針に基づく教育を行います。

### **人間科学研究科**

#### **人間文化科学専攻・生涯人間科学専攻**

##### ＜教育課程の編成＞

1. 学際的視点および女性学・ジェンダーの視点を獲得し、新たな研究領域を拓くことができるようにするために、研究科共通科目を設置する。
2. 各分野の研究方法に習熟し、専門性を深化させるために、「特殊研究」（コースワーク）を設置する。
3. 科目の体系性を明示するために、「特殊研究」を2専攻（人間文化科学専攻および生涯人間科学専攻）に置き、それぞれの専攻において3領域に編成する。
4. 専門的研究能力を向上させ、学位論文作成を可能にするために、専攻共通の専門科目として3年間必修の「論文指導演習」（リサーチワーク）を設置する。
5. 深い教養を備えるとともに、学際的な研究を可能にするために、他専攻の科目を履修できるように柔軟なカリキュラムを編成する。

##### ＜教育内容・方法＞

6. 学生が自主的・主体的な研究能力を身につけるために、参加型の少人数の演習形式の授業、事前に与えられた課題に取り組むことを前提とした反転授業を実施する。
7. 柔軟で開かれた知見を獲得させるために、研究報告書講評などにおいて、複数の教員が指導する体制を設定する。
8. 適切な指導を行うために教育成果の段階的測定、それに基づく客観的評価を行う。
9. 学位論文指導を計画に沿って実施するために、学生と教員および教員間で論文作成および論文指導に関する計画を共有する。

##### ＜学修成果の評価＞

10. 博士後期課程の集大成としての博士論文を必修とし、ディプロマ・ポリシーで掲げた能力を身につけることができたか評価するために、原則として外部審査委員を含めた複数の評価者による論文審査および公開の最終試験を実施する。

### **理学研究科**

#### **数学専攻**

##### ＜教育課程の編成＞

1. 幅広い学問的視野を養うと同時に、数理科学の探求に必要な専門的知識を身につけるため、「特殊研究」（コースワーク）を理論数学と応用数学の2分野に編成する。
2. 学術上の貢献をなす高い研究能力を培うため、3年間必修の「論文指導演習」（リサーチワーク）を設置する。

##### ＜教育内容・方法＞

3. 「特殊研究」においては、理論数学と応用数学の相互交流を通じて、数理科学の様々な問題とそれへのアプローチについて理解を深めることにより、学問的視野を広げ、課題発見能力と問題解決能力を高める。
4. 「論文指導演習」においては、3年間を通じた首尾一貫したきめ細かい指導により、数理科学の探求に必要な専門的知識を効果的に獲得させると同時に、学術上の貢献をなす高い研究能力を培い、将来の研究者にふさわしい人格の基礎を構築する。
5. 学位論文指導を計画に沿って実施するために、学生と教員および教員間で論文作成および論文指導に関する計画を共有する。

##### ＜学修成果の評価＞

6. 博士後期課程の集大成としての博士論文を必修とし、ディプロマ・ポリシーで掲げた能力を身につけることがで

きたか評価するために、原則として外部審査委員を含めた複数の評価者による博士論文審査を経た後、公開の博士論文発表会、更に最終試験を実施する。

## **ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）**（2020年2月改定）

東京女子大学大学院は、建学の精神であるキリスト教の精神に基づく学問研究および教育の機関として、研究者にふさわしい人格を陶冶し、教養を備え、学術上の貢献をなしうる高度な専門的職業人を育成するために、以下の能力を身につけ、かつ、学則に定める所定の単位を修得し、博士論文を提出してその審査および最終試験に合格した学生に、学位（博士）を授与します。

### **人間科学研究科**

#### **人間文化科学専攻**

1. 自らの専攻分野に関する方法論と専門知識を高度に身につけ、さらに学際的視点からの研究を可能にするため、他分野の方法論と専門知識を一定程度身につけている。
2. 「人間の文化」が直面する課題を把握し、分析する能力と、問題解決に必要な方法論、知見、洞察力を身につけている。
3. 研究成果を国内外に発信する表現力と建設的な議論を行うことができるコミュニケーション能力を身につけている。
4. 当該分野において十分な研究業績を有し、学術上の貢献をなしうる自立的な研究能力と、将来にわたり高度な専門的職業人および独創性のある研究者として社会に貢献しうるキャリアを構築する能力を身につけている。

#### **生涯人間科学専攻**

1. 自らの専攻分野に関する方法論と専門知識を高度に身につけ、さらに学際的視点からの研究を可能にするため、他分野の方法論と専門知識を一定程度身につけている。
2. 人間が生涯で直面するさまざまな問題を把握し、人間科学や社会科学の専門知識を自立的に運用する能力と、問題解決に必要な方法論、知見、洞察力を身につけている。
3. 研究成果を国内外に発信する表現力と建設的な議論を行うことができるコミュニケーション能力を身につけている。
4. 当該分野において十分な研究業績を有し、学術上の貢献をなしうる自立的な研究能力と、将来にわたり高度な専門的職業人および独創性のある研究者として社会に貢献しうるキャリアを構築する能力を身につけている。

### **理学研究科**

#### **数学専攻**

1. 自らの専攻分野に関する方法論と専門知識を高度に身につけ、さらに学際的視点からの研究を可能にするため、他分野の方法論と専門知識を一定程度身につけている。
2. さまざまな分野における数理科学的事象に関して、それを数学的に表現するために必要な幅広い学問的視野、および表現された事象を探求するために必要な数学的知識を身につけている。
3. 研究成果を国内外に発信する表現力と建設的な議論を行うことができるコミュニケーション能力を身につけている。
4. 当該分野において十分な研究業績を有し、学術上の貢献をなしうる自立的な研究能力と、将来にわたり高度な専門的職業人および独創性のある研究者として社会に貢献しうるキャリアを構築する能力を身につけている。

## I. 法人の概要

### 1. 法人の沿革

本学は 1910 年エディンバラで開かれたキリスト教世界宣教大会における提案に基づき北米のプロテスタント諸教派の援助のもと、1918 年（大正 7 年）に開学しました。

開校当時は、東京府豊多摩郡淀橋町字角筈（現在の新宿区）を校地とし、学長新渡戸稲造、学監安井てつ、常務理事 A. K. ライシャワーらが本学の礎を築きました。当時の日本の教育制度では、大学の門戸は女性に対しては閉ざされていましたが、本学は敢えて大学に対応する課程を設け、キリスト教主義に立脚したリベラル・アーツの伝統に沿った最高の教育を行うことを目指しました。女子高等教育に求めた高い理想と本学の使命を「すべて真実なこと」（新約聖書 フィリピの信徒への手紙 第 4 章 8 節）という聖句に込め、標語としています。

#### <大学・学部等の変遷>

- 1918 年 大正 7 年：4 月 30 日、東京府豊多摩郡淀橋町字角筈（現在の新宿区）で専門学校令による私立東京女子大学として開学。  
学長新渡戸稲造、学監安井てつ。
- 1924 年 大正 13 年：豊多摩郡井荻村（現在の杉並区善福寺）に移転。
- 1948 年 昭和 23 年：新制大学として発足。  
文学部（哲学科、国文学科、英文学科）を設置。
- 1950 年 昭和 25 年：文学部に社会科学科を増設。  
短期大学部（英語科、国語科、数理科、体育科）を併設。
- 1954 年 昭和 29 年：文学部に心理学科を増設。短期大学部数理科を 3 年制に。  
比較文化研究所を設立。
- 1961 年 昭和 36 年：文理学部（哲学科、日本文学科、英米文学科、史学科、社会学科、心理学科、数理学科）発足。  
短期大学部は、英語科を残し、他の 3 科は募集停止。
- 1966 年 昭和 41 年：短期大学部を三鷹市牟礼に移転。英語科・教養科の 2 科制とする。
- 1968 年 昭和 43 年：東京女子大学創立 50 周年。
- 1971 年 昭和 46 年：大学院文学研究科修士課程（日本文学専攻、英米文学専攻）、理学研究科修士課程（数学専攻）新設。
- 1975 年 昭和 50 年：大学院文学研究科修士課程に哲学専攻を増設。
- 1976 年 昭和 51 年：大学院文学研究科修士課程に史学専攻を増設。
- 1988 年 昭和 63 年：三鷹市牟礼に現代文化学部（コミュニケーション学科、地域文化学科、言語文化学科）新設。
- 1990 年 平成 2 年：女性学研究所を設立。
- 1992 年 平成 4 年：短期大学部廃止。
- 1993 年 平成 5 年：大学院文学研究科修士課程に社会学専攻、心理学専攻を増設。  
大学院現代文化研究科修士課程（現代文化専攻）設置。
- 1997 年 平成 9 年：大学院現代文化研究科及び現代文化学部を杉並区善福寺に移転。
- 2005 年 平成 17 年：大学院人間科学研究科博士後期課程（人間文化科学専攻、生涯人間科学専攻）設置。  
大学院理学研究科数学専攻を博士課程に課程変更し、博士後期課程を設置。  
牟礼校地（三鷹市）譲渡。
- 2009 年 平成 21 年：現代教養学部（人文学科、国際社会学科、人間科学科、数理科学科）設置。
- 2012 年 平成 24 年：大学院人間科学研究科博士前期課程（人間文化科学専攻、人間社会科学専攻）設置。
- 2014 年 平成 26 年：大学院文学研究科修士課程廃止。
- 2015 年 平成 27 年：現代文化学部廃止。
- 2016 年 平成 28 年：文理学部、大学院現代文化研究科修士課程廃止。
- 2018 年 平成 30 年：東京女子大学創立 100 周年。  
現代教養学部国際英語学科、心理・コミュニケーション学科を設置。

## 2. 設置する学校・学部・学科等（2022年4月1日現在）

理事長 安田 隆二

東京女子大学

所在地 東京都杉並区善福寺2丁目6番1号

学長 森本 あんり

### ■ 学部

現代教養学部	国際英語学科	国際英語専攻	(2018年度新設)
	人文学科	哲学専攻	
		日本文学専攻	
		英語文学文化専攻	(2018年度より学生募集停止)
		歴史文化専攻	(2018年度より史学専攻から名称変更)
		史学専攻	(2018年度より学生募集停止)
	国際社会学科	国際関係専攻	
		経済学専攻	
		社会学専攻	
		コミュニティ構想専攻	(2018年度新設)
	心理・コミュニケーション学科	心理学専攻	(2018年度新設)
		コミュニケーション専攻	
	人間科学科	心理学専攻	(2018年度より学生募集停止)
		コミュニケーション専攻	
		言語科学専攻	
数理科学科	数学専攻		
	情報理学専攻		

### ■ 大学院

人間科学研究科 (博士前期課程)	人間文化科学専攻
	人間社会科学専攻
人間科学研究科 (博士後期課程)	人間文化科学専攻
	生涯人間科学専攻
理学研究科 (博士前期課程・博士後期課程)	数学専攻

### 《 学 習 環 境 》

#### ◇所在地

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1

#### ◇主な交通手段

西荻窪駅（JR中央線・総武線、東京メトロ東西線乗り入れ）

北口より徒歩12分

北口（1番のりば）より吉祥寺駅行バスで「東京女子大前」下車

吉祥寺駅（JR中央線・総武線、京王井の頭線）

北口（3番のりば）より西荻窪駅行バスで「東京女子大前」下車

上石神井駅（西武新宿線）南口より西荻窪駅行バスで「地藏坂上」下車、徒歩5分

◇キャンパス概要

本学公式サイト：キャンパス紹介 参照

<https://www.twcu.ac.jp/main/about/campus/>

◇課外活動の状況

本学公式サイト：キャンパスライフ 参照

<https://www.twcu.ac.jp/main/campuslife/>

### 3. 学部・学科等の入学定員、在籍学生数の状況（2022年5月1日現在）

\*1 学部の収容定員は2018年度学部改組後の定員（1年次分）と改組前の定員（2～4年次分）の合計

\*2 在籍学生数：（ ）内は休学者の内数、[ ]内は最低在学年限超過学生の内数。

\*3 社会人対象の入試により入学した学生数

#### 【学部】

学部	学科	入学定員	収容定員 *1	在籍学生数 *2	社会人 学生 内数*3	収容定員 充足率[%]
現代教養 学部	国際英語学科	130	595	600 (17)	1	100.8
	人文学科	205	805	881 (10)	0	109.4
	国際社会学科	284	1,094	1,166 (12)	0	106.6
	心理・コミュニケーション学科	200	785	804 ( 8)	0	102.4
	人間科学科	— (募集停止)	—	6 ( 0)	0	—
	数理科学科	71	281	306 ( 4)	0	108.9
	小計	890	3,560	3,763 (51)	1	105.7
学部計		890	3,560	3,763 (51) [85]	1	105.7

#### 【大学院】

	研究科	専攻	入学定員	収容定員	在籍学生数 *2	社会人 学生 内数*3	収容定員 充足率[%]
博士 前期 課程	人間科学研究科	人間文化科学専攻	22	44	35 ( 0)	1	79.5
		人間社会科学専攻	20	40	29 ( 1)	0	72.5
		小計	42	84	64 ( 1) [5]	1	76.2
	理学研究科	数学専攻	6	12	12 ( 0) [0]	0	100.0
計			48	96	76 ( 1) [5]	1	79.2
博士 後期 課程	人間科学研究科	人間文化科学専攻	4	12	7 ( 0)	3	58.3
		生涯人間科学専攻	5	15	5 ( 2)	0	33.3
		小計	9	27	12 ( 2) [4]	3	44.4
	理学研究科	数学専攻	3	9	0 ( 0) [0]	0	0.0
計			12	36	12 ( 2) [4]	3	33.3
大学院計			60	132	88 ( 3) [9]	4	66.7

#### 4. 教育課程（授業科目及び単位数、必修・選択必修・選択の別、履修年次等）

本学公式サイト参照

〔現代教養学部〕（2018年度以降入学者に適用）

全学共通カリキュラム

<https://www.twcu.ac.jp/main/features/curriculum/>

国際英語学科

<https://www.twcu.ac.jp/main/academics/sas/english/>

人文学科

<https://www.twcu.ac.jp/main/academics/sas/humanities/>

国際社会学科

<https://www.twcu.ac.jp/main/academics/sas/transnational-studies/>

心理・コミュニケーション学科

<https://www.twcu.ac.jp/main/academics/sas/psychology-communication/>

数理科学科

<https://www.twcu.ac.jp/main/academics/sas/mathematics/>

〔大学院〕

人間科学研究科人間文化科学専攻（博士前期課程）

<https://www.twcu.ac.jp/main/academics/grad/hs/master/humanities-culture/>

人間科学研究科人間社会科学専攻（博士前期課程）

<https://www.twcu.ac.jp/main/academics/grad/hs/master/humanities-science/>

理学研究科数学専攻（博士前期課程）

<https://www.twcu.ac.jp/main/academics/grad/s/master/mathematics/>

人間科学研究科人間文化科学専攻（博士後期課程）

<https://www.twcu.ac.jp/main/academics/grad/hs/doctoral/humanities-culture.html>

人間科学研究科生涯人間科学専攻（博士後期課程）

<https://www.twcu.ac.jp/main/academics/grad/hs/doctoral/humanities-sc.html>

理学研究科数学専攻（博士後期課程）

<https://www.twcu.ac.jp/main/academics/grad/s/doctoral/mathematics.html>

○シラバス

<https://office2.bb.twcu.ac.jp/syllabus.html>

#### 5. 卒業認定基準（卒業に必要な最低単位数）及び取得可能な学位

【学部】

〔卒業認定基準〕

4年以上在学し、本学の教育課程にしたがって授業科目を系統的に履修し、所定科目について130単位以上を修得したとき、卒業が認められます。

○現代教養学部（2018年度以降入学者に適用）

卒業に必要な最低単位数				合計	130 単位
全学共通 カリキュラム	リベラル・ スタディーズ	総合教養科目	女性の生きる力、人間と自然科学、人間自身を知る、人間の知的生産、人間社会の仕組みと問題の5領域	16	
			女性のウェルネス領域	2	
		キリスト教学科目		6	
		外国語科目		国際英語学科	7

	アカデミック・スキル科目	情報処理科目	第一外国語 (英語)	人文・国際社会・心理 コミュニケーション・数理科学科	9
			第二外国語 (ドイツ語、フランス語、 スペイン語、中国語、韓国語)		4
					4
学科科目	国際英語学科	所属する学科科目			64
	人文学科	所属する 学科科目	学科共通科目		14
			専攻科目		50 <sup>*1</sup>
	国際社会学科		学科共通科目		12
			専攻科目		52 <sup>*1</sup>
	心理コミュニケーション 学科		学科共通科目		14
			専攻科目		50 <sup>*1</sup>
数理科学科	学科共通科目		12		
	専攻科目		60 <sup>*2</sup>		
自由選択科目	国際英語学科				27
	人文学科				25
	国際社会学科				
	心理・コミュニケーション学科				
	数理科学科				17

\*1 42単位は自分の所属する専攻の科目で満たさなければなりません。

\*2 28単位は自分の所属する専攻の科目で満たさなければなりません。

## 【大学院】

〔修了要件〕

### 博士前期課程

2年以上在学し、所定の専攻科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。

### 博士後期課程

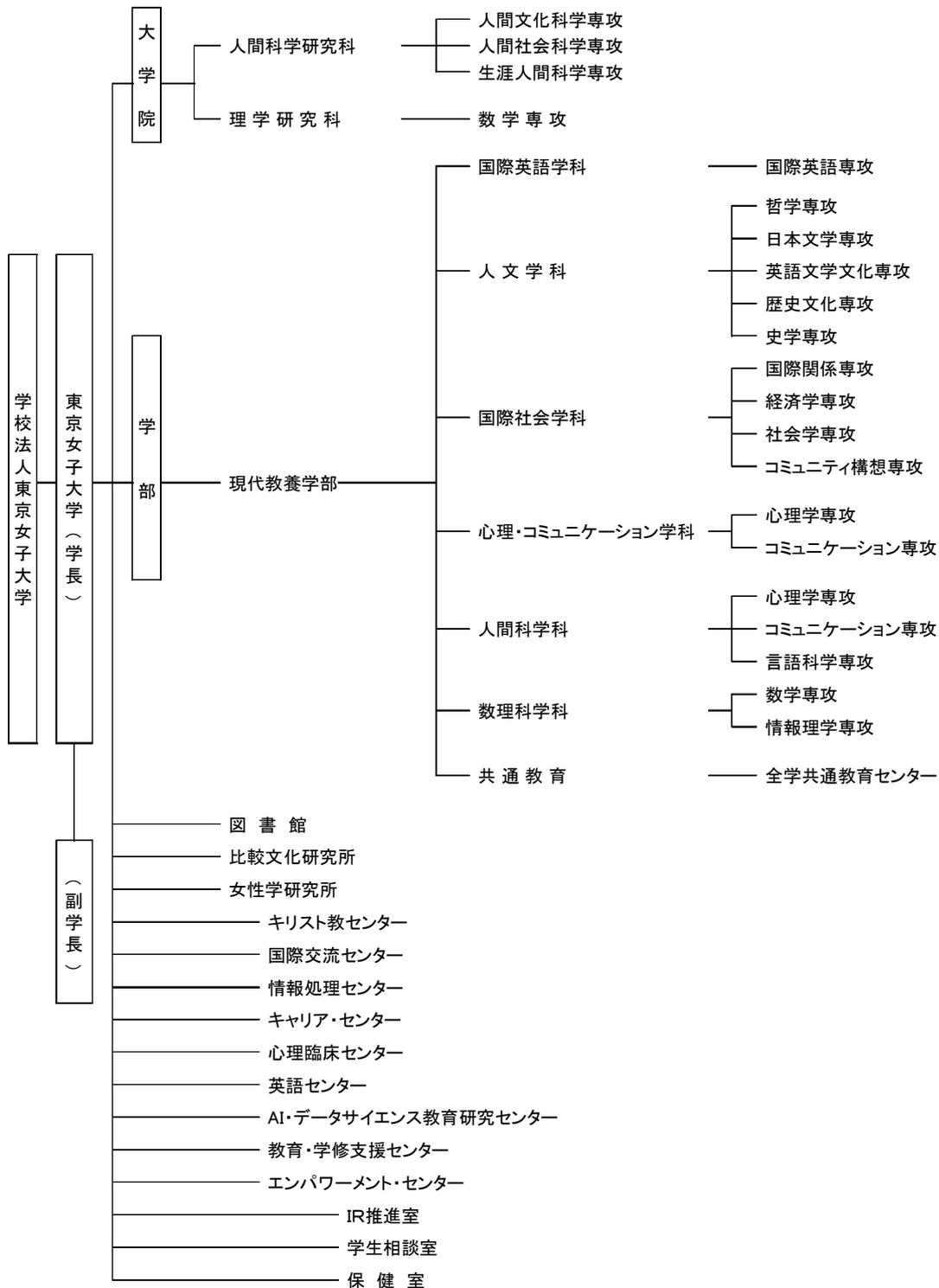
3年以上在学し、所定の専攻科目について、人間科学研究科においては16単位以上を、理学研究科においては  
得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。

## ◎取得可能な学位

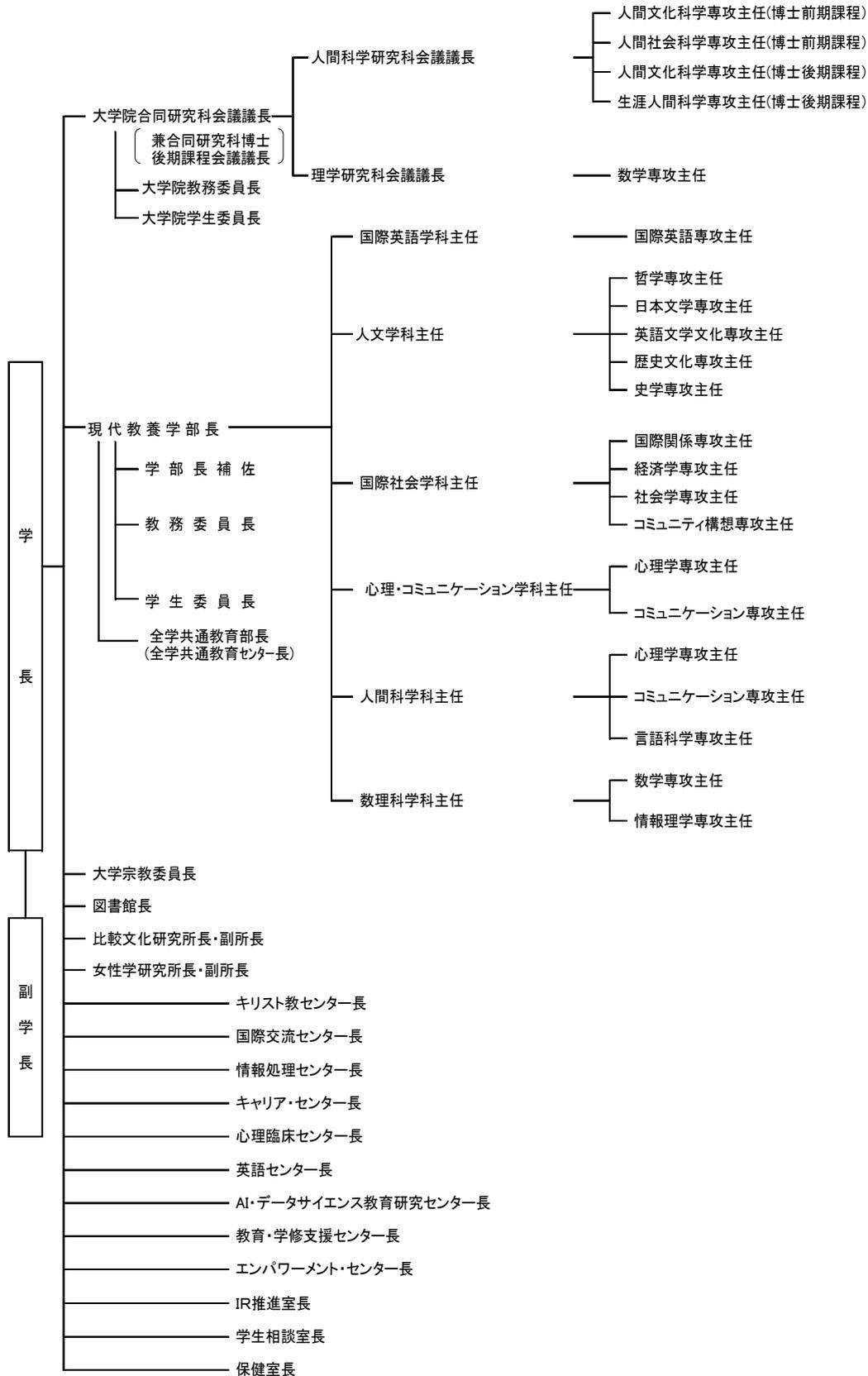
学 部		
現代教養学部	国際英語学科	学士 (教養)
	人文学科	
	国際社会学科	
	心理・コミュニケーション学科	
	人間科学科	
	数理科学科	学士 (理学)
博士前期課程		
人間科学研究科	人間文化科学専攻	修士 (人間文化科学)
	人間社会科学専攻	修士 (人間社会科学)
理学研究科	数学専攻	修士 (理学)
博士後期課程		
人間科学研究科	人間文化科学専攻	博士 (人間文化科学)
	生涯人間科学専攻	博士 (生涯人間科学)
理学研究科	数学専攻	博士 (理学)

6. 組織

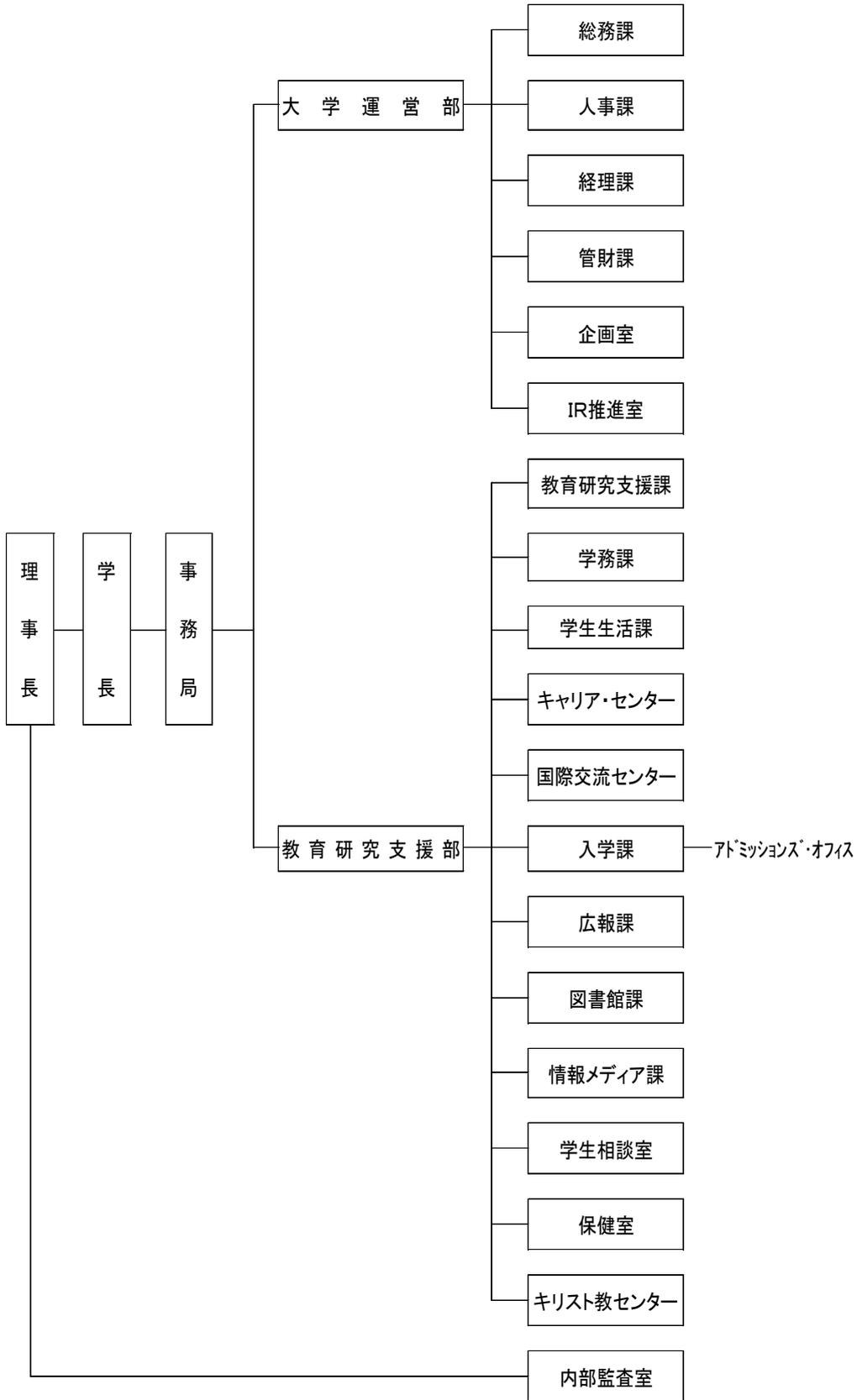
学校法人東京女子大学組織図（大学）



## 東京女子大学組織図（大学役職）



学校法人東京女子大学 事務組織図



## 7. 役員・評議員の概要 (2023年3月31日現在)

(1) 役員 定員：理事 13 人以上 16 人以下、監事 2 人 現員：理事 14 人、監事 2 人

役 職	氏 名	就 任 日	常勤・非常勤	現 職 等
理 事 長	安田 隆二	2020年3月12日	非常勤	(一社)野中インスティテュート・オブ・ナレッジエグゼクティブ・スクール・ファカルティ
理事・学長	森本 あんり	2022年4月1日	常勤	東京女子大学学長
記録理事	原岡 文子*	2009年7月27日	非常勤	聖心女子大学名誉教授/サンリツ服部美術館理事
財務理事	小西 忠雄	2008年11月20日	非常勤	川崎商工会議所顧問/元池袋ターミナルビル(株)代表取締役社長
理 事	安達 保*	2021年9月1日	非常勤	(合同会社)Office Adachi 代表/ 元(株)ベネッセホールディングス代表取締役会長
	小山 恵子*	2018年9月20日	非常勤	(一社)東京女子大学同窓会会長
	唐澤 真弓	2021年6月18日	常勤	東京女子大学現代教養学部教授
	北原 和夫*	2014年4月1日	非常勤	日本基督教団三軒茶屋教会副牧師/ 東京工業大学名誉教授/国際基督教大学名誉教授
	小林 芳郎*	2018年5月1日	非常勤	東邦大学名誉教授
	野川 忍*	2017年5月1日	非常勤	明治大学法科大学院法務研究科教授
	樋野 興夫*	2017年6月1日	非常勤	(学)恵泉女学園理事長/順天堂大学名誉教授
	茂里 一紘*	2012年9月20日	非常勤	広島大学名誉教授/前東京女子大学学長
	森 千賀子*	2017年3月25日	非常勤	元アフラック収納サービス(株)代表取締役社長
	Wayne Jansen*	2019年10月1日	非常勤	米国改革派教会宣教師/東京神学大学教授/(学)横浜共立学園理事
監 事	神保 正男	2011年6月1日	非常勤	元エーザイ(株)執行役員経理部長/ 元三光純薬(株)代表取締役社長
	藤田 充宏	2021年2月28日	非常勤	弁護士

注

- 責任限定契約の概要：本法人は、非業務執行理事である\*印の各理事及び各監事との間で、本法人寄附行為第51条に規定する責任限定契約を締結しております。当該契約に基づく賠償責任限度額は、私立学校法第44条の5で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に定める最低責任限度額となります。
- 役員賠償責任保険の概要：本法人は、2021年8月1日より、全役員を被保険者として、私立学校法第44条の5で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に規定する役員賠償責任保険を保険会社との間で締結しております。当該保険により、役員がその職務執行に関して負う損害賠償金及び争訟費用を補填するものです。

## (2) 評議員

定員：31人以上33人以下

現員：31人

役職	氏名	就任日	現職等
評議員会議長	慶田 勝美	2005年5月1日	弁護士
評議員	Wayne Jansen	2013年8月1日	(学)東京女子大学理事/米国改革派教会宣教師/東京神学大学教授/(学)横浜共立学園理事
	Yoko Gish	1995年7月1日	米国合同メソジスト教会宣教師
	Devora Umipig Julian	2017年5月1日	米国合同メソジスト教会宣教師
	キスト岡崎 さゆ里	2017年5月1日	日本基督教団協力宣教師/(学)フェリス学院理事
	石川 牧子	2012年5月1日	(医)RMDCC 理事
	安達 保	2022年11月17日	(学)東京女子大学理事/(合同会社)Office Adachi 代表/元株式会社ベネッセホールディングス代表取締役会長
	北原 和夫	2011年5月1日	(学)東京女子大学理事/日本基督教団三軒茶屋教会副牧師/東京工業大学名誉教授/国際基督教大学名誉教授
	小西 忠雄	2008年11月16日	(学)東京女子大学理事/川崎商工会議所顧問/(公財)同志会相談役
	小林 芳郎	2020年5月1日	(学)東京女子大学理事/東邦大学名誉教授
	中津井 泉	2005年5月1日	元リクルート「カレッジマネジメント」編集長
	野川 忍	2018年5月1日	(学)東京女子大学理事/明治大学法科大学院法務研究科教授
	原岡 文子	2018年5月1日	(学)東京女子大学理事/聖心女子大学名誉教授/サンリツ服部美術館理事
	広瀬 弘忠	2011年5月1日	東京女子大学名誉教授
	茂里 一紘	2022年3月11日	(学)東京女子大学理事
	森 千賀子	2018年9月20日	(学)東京女子大学理事
	安田 隆二	2020年3月12日	(学)東京女子大学理事
	小山 恵子	2018年9月20日	(学)東京女子大学理事/(一社)東京女子大学同窓会会長
	工藤 京子	2012年9月20日	元東京女子大学同窓会理事
	下山 嬢子	2017年5月1日	大東文化大学名誉教授
	竹内 絢子	2008年5月1日	税理士
棚村 恵子	2020年5月1日	日本基督教団牧師/元東京女子大学現代教養学部教授	
安藤 由紀美	2017年4月1日	東京女子大学事務局長	
遠藤 勝信	2020年10月1日	東京女子大学現代教養学部教授	
加藤 由花	2017年10月1日	東京女子大学現代教養学部教授	
黒崎 政男	2020年10月1日	東京女子大学現代教養学部教授	
小檜山 ルイ	2011年10月1日	東京女子大学現代教養学部教授	

	佐野 正子	2020年4月1日	東京女子大学現代教養学部教授
	須賀 健太郎	2019年4月1日	東京女子大学教育研究支援部課長補佐
	樋脇 博敏	2020年4月1日	東京女子大学現代教養学部教授
	渡辺 訓子	2017年4月1日	東京女子大学教育研究支援部課長

## 8. 教職員の概要（2022年5月1日現在）

### （1）教 員

#### ① 本学を本務とする教員数

（人）

学部等	教授			准教授			講師			助教			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
現代教養学部	47	33	80	17	14	31	7	4	11	0	0	0	71	51	122
大学院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
比較文化研究所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女性学研究所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	47	33	80	17	14	31	7	4	11	0	0	0	71	51	122
大学院担当者内数	41	25	66	11	7	18	0	0	0	0	0	0	52	32	84
外国人内数	1	1	2	2	3	5	4	0	4	0	0	0	7	4	11
休職者内数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（学長は含まない。）

※学部の専任教員数

いずれの学部・学科も、大学設置基準第13条別表第1のイ及び別表第2に定める専任教員数の合計数以上を配置している。

※大学院の専任教員数

いずれの研究科・専攻も、大学院設置基準第9条の規定に基づき、大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定めた文部省告示第175号別表第1及び第3に定める教員数を配置している。

#### ② 教員年齢構成

（人）

職位	66歳 ～ 70歳	61歳 ～ 65歳	56歳 ～ 60歳	51歳 ～ 55歳	46歳 ～ 50歳	41歳 ～ 45歳	36歳 ～ 40歳	31歳 ～ 35歳	26歳 ～ 30歳	25歳 以下	計
	教授	13 16.3%	23 28.8%	18 22.5%	11 13.8%	10 12.5%	5 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
准教授	0 0.0%	0 0.0%	3 9.7%	3 9.7%	7 22.6%	12 38.7%	6 19.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	31 100.0%
講師	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 18.2%	2 18.2%	3 27.3%	2 18.2%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	11 100.0%
助教	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%								

合 計	13	23	21	16	19	20	8	2	0	0	122
	10.7%	18.9%	17.2%	13.1%	15.6%	16.4%	6.6%	1.6%	0.0%	0.0%	100.0%
定年 68歳	(平均年齢：53.6歳)										

★注：%については、小数点以下を四捨五入しているため、合計しても100%にならないことがあります。

③ 教員の保有学位、業績等（本学公式サイト参照）

教員情報データベース：<https://kenkyu-db.twcu.ac.jp/scripts/websearch/index.htm>

④ 学外からの兼務の教員数

(人)

	男	女	計
非常勤講師等	170	143	313
外国人内数	29	11	40

(2) 特別職員・事務職員

(人)

	男	女	計
特別職員	2	11	13
事務職員	16	89	105
合 計	18	100	118

## II. 事業の概要

### A. 教学改革への取り組み

#### 1. 学部教育の改革（〔中期計画〕【I】教学改革：目標1）

創立以来掲げてきたリベラルアーツ教育を現代的に充実させるため、2024年度から2025年度にかけて、現代教養学部のカリキュラム改正及び学科再編を行うことを決定しました。計画案は以下のとおりです。

新学習指導要領に沿った学生たちが入学してくる2025年度を見据え、その受け皿となる教育体制を整えるとともに、「東京女子大学グランドビジョン」が掲げる人物の育成をより促進するために、2024年と2025年の2か年にわたって、教学改革と学科再編を行います。まず2024年に教養教育の基盤となる全学共通科目の教育内容・方法を大胆に改革し、未来を見据えた形で教養教育の一層の充実と発展を目指します。数理科学科情報数理科学専攻の立ち上げ（既設の数理科学科の数学専攻と情報理学専攻を統合）、経営学分野の強化（既設の国際社会学科経済学専攻の経営学分野を拡充）を行います。

2025年には学科を再編成し、本学のリベラルアーツ教育のもう一つの柱である専門教育の充実を図ります。

#### 2. 英語センターの設置（〔中期計画〕【IV】国際交流：目標2）

全学横断的に英語力の飛躍的向上を企画・実施する拠点として「英語センター」を2022年度に設置し、活動・運営を始動させました。本センター設置の目的に沿って、全学の英語カリキュラムでは、本学の学生が必要としている英語力を正確に測定しその調査データを踏まえて24年度導入予定の新規カリキュラム策定の準備を進めた他、キャリア・イングリッシュ課程を改編し高度な英語力をさらに伸ばしたい学生向けの新課程を設ける準備も行いました。

加えて、「英語オンライン学習特別プログラム」（特別奨励金支給）を設け、基準点（TOEIC）を満たした受講生の32%に特別奨励金を支給しました。課外活動としては、学生主体で運営するサークル（SCALE: Student Committee for the Advancement and Learning of English. Advancement, Learning, English）の活動を支援するなど、主体的に英語を学ぶ本学の学生に寄り添い、多角的かつ幅広く支援する仕組みを整えました。

#### 3. AI・データサイエンス教育研究センターの設置（〔中期計画〕【I】教学改革：目標4）

(1) 数理・データサイエンス・AIに関わる教育及び研究を確立・強化し、先端技術の進歩にともなう急激な社会変化に対応し、その理解と応用に必要な基礎力を涵養するとともに当該分野・技術の研究・応用を牽引してゆく人材の育成に資することを目的として、AI・データサイエンス教育研究センター（Education and Research Center for AI and Data Science）を設置しました。

(2) データサイエンス副専攻を開設しました。多様なデータ分析の方法を理解するだけではなく、自らデータから有益な情報、知見を引き出す分析力を身につけることを到達目標としています。R言語による演習を交えた「文理融合データサイエンスI」等のコア

- 科目をはじめ、数学や統計の基礎、各学問分野での応用を学ぶ科目まで多様な科目を取りそろえています。初年度となる2022年度は55名の学生が副専攻に登録しました。
- (3) データサイエンス副専攻のうち「第1区分コア科目」について、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」への申請準備を進めました。本学の初年次教育として位置付けている「情報処理技法（リテラシ）I」及び「同II」、お茶の水女子大学より教材、カリキュラムの提供を受けている「文理融合データサイエンスI」、「同IIA」及び「同IIB」からなる5科目により、データサイエンスの手法を概観しその意義や重要性を理解すること、情報処理の基礎を学ぶことができるとしています。申請にあたっては、当該科目に関する自己点検・評価、書面審査による外部評価を実施いたしました。

#### 4. 大学院の取り組み（博士前期課程・博士後期課程）

##### (1) ダブル・ディグリー制度の実施（〔中期計画〕【IV】国際交流：目標1、2）

大学院の国際化を推進するための上海外国語大学日本文化経済学院との共同学位（ダブルディグリー）プログラムが始動しました。上海外国語大学から2名の学生が2022年4月に入学し、後期より本学キャンパスでの学びを始めました。国内外の時代状況を広く見渡した研究をテーマとする学生が共に学ぶことにより授業に「アジアの視点」が加わる等、大きな刺激となっています。

##### (2) 学士・修士5年プログラムの導入（〔中期計画〕【I】教学改革：目標2）

優秀な学生に対して十分な学修の機会を提供できるよう、学部を含め5年で修士の学位を授与する制度を2022年度より導入しました。2022年度は、学部3年次学生4名を2023年度からの学士・修士5年プログラム履修者とすることを決定しました。

#### 5. 教育の質保証の取り組みの推進（〔中期計画〕【I】教学改革：目標2）

- (1) 学部教学改革に伴い、教育課程改正の検討と合わせてCAP制\*について検討を行い、単位の実質化を進めるため、2024年度以降は年間の履修登録単位数上限を現行の44単位から40単位に引き下げることを決定しました。また、成績評価の標準化・厳格化を目的として、卒業研究（卒業論文、講究）のルーブリックの見直しを行ったほか、「成績評価の厳格化のためのガイドラインについて」への一部加筆を行い、ガイドラインの明確化を図りました。

\*1年間あるいは1学期間に履修登録できる単位の上限を設ける制度

- (2) 「学生による授業評価」アンケートの結果を受けて、「遠隔授業で取り入れたことや、実施したことの中で、対面授業にも活用できること」という新たな共通テーマで検討会を開催しました。Google FormsやZoomのチャット機能などオンラインの手法を対面授業でも取り入れるなど、多様な授業運営に向けて情報を共有しました。学生参加型FDでは、全学科・専攻（数理科学科は学科で1名）から11名の学生が参加し、FD委員（教員）と「外国語の学習」「総合教養科目」について活発な意見交換が行われ、授業改善の一助となりました。

#### 6. 内部質保証体制の強化（〔中期計画〕【I】教学改革：目標1、2）

2023年度の大学基準協会による認証評価の受審に向け、「2022年度東京女子大学自己点検・評価報告書」を作成し、大学基礎データ、根拠資料など評価に関わる資料とともに同協会に提出しました。作成に際し、2021年度に実施した自己点検・評価及び外部評価において認識された問題点について改善を図ることで、学内の内部質保証体制の整備を進めました。

また、昨年度に引き続き、内部質保証体制の適切性を点検評価するため、外部の有識者を含む内部質保証体制評価委員会を開催しました。加えて、プランニングに重点を置いた内部質保証についての研修を行い、全学的なマネジメントサイクルの向上について認識を共有しました。

#### 7. 「東京女子大学 SDGs 宣言」の展開（〔中期計画〕【II】東京女子大学 SDGs 宣言：目標1）

2021年度に採択した「東京女子大学 SDGs 宣言」に沿って、「SDGs 推進委員会」を活動の核として取り組みを展開しました。具体的には4月にSDGsに関するオンライン講演会、5月に教職員によるフリーマーケット（国連難民高等弁務官事務所、日本赤十字へ寄付）、12月にウクライナの民族楽器奏者によるチャリティーコンサート（本学受け入れウクライナ学生支援、国連難民高等弁務官事務所へ寄付）を行いました。

## B. 研究活動の推進

---

### 1. 研究所等における研究活動

#### （1）比較文化研究所

2021年度に研究所協定を締結した上海外国語大学日本研究センターとの間で、国際共同研究「近代日本の中国都市体験の研究」（2021-2023年度）を行いました。2022年7月と2023年1月に国際共同研究シンポジウムをオンラインで開催し、海外研究者との交流をさらに深めることができました。（〔中期計画〕【IV】国際交流：目標3）

また、7月には公開講演会「蘇るちりめん本の魅力—東京女子大学ちりめん本コレクションに見る日本の伝統と国際交流—」（原田範行慶応義塾大学教授）をハイフレックスで開催し、高大連携協定校9校にもオンラインで公開いたしました。10月にはティー・レクチャー「ルイザ・メイ・オルコットのもう一つの顔—『若草物語』の秘密—」（篠目清美本学名誉教授）を開催し、本学学生・教職員の積極的な参加を得て、盛会裏に終わることができました。

比較文化に関する優秀な卒業研究に対して授与する「比較文化研究所賞」は、7専攻計8名（うち1つはグループ）に授与しました。研究活動の成果物として『東京女子大学比較文化研究所紀要』『比較文化』を刊行するとともに、ちりめん本デジタルアーカイブの継続的な公開を行いました。

#### （2）比較文化研究所附置丸山眞男記念比較思想研究センター

センターの活動の幅を拡げ、近代日本思想史研究のハブ的機能を果たすため、丸山センター監修『近現代日本思想史ガイド—「知」の巨人100人の200冊』（平凡社新書、2023年3月）と鷲巣力・山辺春彦著『丸山眞男と加藤周一知識人の自己形成』（立命館大学加藤周一現代思想研究センターとの共同監修、筑摩選書、2023年3月）を刊行しました。

2022年12月には第22回丸山眞男文庫記念講演会「昭和中期の陽明学研究——丸山世代の研究者たち」（講演者：小島毅・東京大学教授）を開催し、63名の受講者がありました。

### （3）女性学研究所

東京女子大学の教員には女性学・ジェンダー研究に関する共同研究（3件）・個人研究（1件）の助成を行い、学生・卒業生には青山なを研究奨励金、秋枝簫子学生研究奨励金、江口裕子学生研究奨励金の授与、そして各専攻の優れた卒業研究に対しては「女性学研究所賞」を贈呈しました。なお、女性史の優れた著作に対して贈呈する「女性史青山なを賞」には、2022年度は2作品が選定されました。講演活動としては、学生や教職員、学外者を対象に研究所主催の講演会を実施し、また昼休みの時間帯には『Woman's Cafe』を国内外の講師を招き6回開催しました。第6回「『推し』ながら悩み、悩みながら『推す』」では、279名の参加者があるなど、学内外の研究者との研究交流を深め、教育に資する活動となりました。2022年度の本研究所の活動は『女性学研究所年報』33号に掲載されています。

## 2. 研究支援（〔中期計画〕【1】教学改革：目標5）

- ①新たに本学研究者2名の研究成果紹介動画を作成し、研究紹介動画「挑戦する知性」として大学公式サイトで公開しました。広報課と連携して公式SNSや広報誌において積極的に学内外に情報発信を行うとともに、『大学院案内』においても研究紹介動画を紹介するなど、本学のリベラルアーツ教育を形作る広い領域にわたる高い専門性をもった教員の研究の広報に努めました。
- ②エンパワーメント・センターにおいて、自身及び配偶者が妊娠、育児、介護等のライフイベント期にある研究者を支援する、女性研究者研究支援員制度を行っています。2022年度前期は3名、後期は2名がこの制度により支援を受けました。

## C. 学生の受入れ

---

### 1. 各入試制度の見直し（〔中期計画〕【Ⅲ】高大接続改革：目標2）

総合型選抜である知のかけはし入学試験について、幅広い層の受験生を確保するために出願資格を見直し、専願でなくても受験できるようにしました。その結果、志願者は前年比4.8倍の126名に増加し、入学者数も募集人員を満たすことができました。

### 2. 高大連携の強化（〔中期計画〕【Ⅲ】高大接続改革：目標1）

前年度に引き続き、高大連携校との関係の強化、および新たな連携に向けた活動の促進を図りました。新たに3校（東京純心女子高等学校、国府台女子学院高等部、恵泉女学園高等学校）と高大連携協定を締結したことで、高大連携校は9校となりました。また、前年度新設した学校推薦型選抜（高大連携型）を導入した高等学校は6校となりました。

各高校の要望に応じた連携活動を行うとともに、高大連携校限定の「1日東女生（授業体験）」や学内講座の配信など、本学独自の連携活動も実施しました。

## D. 国際化の推進（〔中期計画〕【Ⅳ】国際交流：目標1・2）

---

## 1. 海外派遣プログラム再開

新型コロナウイルス感染症の影響下において留意すべき点などの実施条件を確認し、協定校留学、トビタテ！留学 JAPAN のプログラム、国際英語学科必修のスタディ・アブロードを渡航により実施しました。渡航を伴う海外留学は依然として多くのリスクを伴うものであるため、安全を担保することに引き続き留意しました。

短期の語学研修については、春期のプログラムより渡航留学を再開し、長期休暇中に海外を体験する機会を提供することができました。

## 2. オンラインでの国際交流の充実

海外渡航が出来ない場合の代替措置としてだけでなく、選択肢の充実として海外協定校とオンラインでの交流プログラムを実施しました。ケンブリッジ教養講座が 2020 年度から中止されていたため、ケンブリッジ大学と本学の関係性を維持するために、2022 年度はオンラインによる 1day 特別講義を実施し 36 名の学生が参加しました。ケンブリッジ大学の担当者による英語での講義に参加者は熱心に参加しました。

海外の学生の受け入れプログラムとして 2019 年度に開始した日本語プログラムは、入国制限により留学生の来日が 2021 年度に引き続き制限されたため、2022 年度もオンラインで行いました。3 か国 11 名の海外の本学協定校で日本語を学習している学生が参加しました。日本語を学ぶだけでなく、本学学生との交流会などで日本についてさらに理解を深める機会を提供しました。本学学生にとっても海外の学生と交流ができる貴重な経験となりました。

[国際交流に関するデータ]

### ① 2022 年度 協定大学・プログラム一覧

	協定先	国	協定内容	備考
1	University of York	イギリス	交流協定・学生交換・語学研修プログラム	
2	Lancaster University	イギリス	学生派遣	
3	The University of Edinburgh	イギリス	学生派遣	
4	The University of Leeds	イギリス	学生派遣	
5	Middlesex University	イギリス	学生派遣	
6	Cambridge University, Hughes Hall	イギリス	交流協定・サマープログラム(教養講座)	
7	Dublin City University	アイルランド	学生派遣	
8	Scripps College	アメリカ	交流協定・学生交換	
9	Saint Michael's College	アメリカ	交流協定・学生交換・語学研修プログラム	
10	California State University, Fullerton	アメリカ	交流協定	交流協定の元で学生派遣を行っている。
11	Otterbein University	アメリカ	交流協定・学生派遣	

12	Presbyterian College	アメリカ	学生派遣	
13	Temple University	アメリカ	学生派遣	
14	University of California, Davis	アメリカ	交流協定・学生派遣	
15	McGill University	カナダ	学生派遣	
16	University of Alberta	カナダ	交流協定	
17	University of the Fraser Valley	カナダ	交流協定・学生派遣	
18	Algoma University	カナダ	交流協定・学生派遣	
19	University of Wollongong	オーストラリア	交流協定・学生派遣	
20	Australian Catholic University	オーストラリア	交流協定・学生派遣	
21	Flinders University	オーストラリア	学生派遣	
22	Southern Cross University	オーストラリア	学生派遣	
23	Griffith University	オーストラリア	学生派遣	
24	La Trobe University	オーストラリア	学生派遣	
25	University of Canterbury	ニュージーランド	学生派遣	
26	Victoria University of Wellington	ニュージーランド	学生派遣	
27	上海外国語大学	中国	交流協定・学生交換	
28	誠信女子大学校	韓国	交流協定・学生交換	
29	梨花女子大学	韓国	交流協定・学生派遣	
30	東海大学	台湾	交流協定・学生交換	
31	輔仁大学	台湾	交流協定・学生交換	
32	国立台湾師範大学	台湾	交流協定・学生交換	
33	Chiang Mai University	タイ	交流協定	
34	Srinakharinwirot University	タイ	交流協定	

② 海外からの留学生受入状況（2022年5月1日現在）

	研究科		専攻	正規課程留学生			計
				1年	2年	3年	
大学院	博士後期	人間科学研究科	人間文化科学専攻				
			生涯人間科学専攻				
		理学研究科	数学専攻				
	博士前期	人間科学研究科	人間文化科学専攻	1	0	/	8
			人間社会科学専攻	4	3		
		理学研究科	数学専攻				
計				5	3		8

	学科	専攻	正規課程留学生				計	非正規生
			1年	2年	3年	4年		
現代教養学部	国際英語学科	国際英語専攻	1	1	0	3	5	
	人文学科	哲学専攻					7	3
		日本文学専攻		3	3	1		
		歴史文化専攻						
	国際社会学科	国際関係専攻	6	5	4	6	25	
		経済学専攻	1			1		
		社会学専攻						
		コミュニティ構想		1	1			
	心理・コミュニケーション学科	心理学専攻			1	1	16	
		コミュニケーション専攻	5	4	3	2		
	数理科学科	数学専攻	1				1	
		情報理学専攻						
計			14	14	12	14	54	3

大学院、現代教養学部総数 65 名の内、

- ・在留資格「留学」を有する正規課程留学生 54 名
- ・国籍：中国 24 名（台湾 2 名を含む）、韓国 28 名、ベトナム 1 名、スペイン 1 名）

非正規生 3 名

③ 2022 年度海外への留学状況

〔協定校留学〕	
誠信女子大学校（韓国）	2022 年度前期 1 名
梨花女子大学（韓国）	2022 年度後期 1 名
エジンバラ大学（イギリス）	2022 年度後期・2023 年度前期 2 名
リーズ大学（イギリス）	2022 年度後期・2023 年度前期 1 名
ダブリンシティ大学（アイルランド）	2022 年度後期・2023 年度前期 1 名
カリフォルニア州立大学フラトン校（アメリカ）	2022 年度後期 1 名
カリフォルニア州立大学フラトン校（アメリカ）	2022 年度後期・2023 年度前期 1 名
フレーザーバレー大学（カナダ）	2022 年度後期 1 名
アルバータ大学（カナダ）	2022 年度後期 1 名
アルバータ大学（カナダ）	2022 年度後期・2023 年度前期 1 名
グリフィス大学（オーストラリア）	2022 年度後期 1 名
〔認定校留学〕	
なし	

④ 2022 年度語学研修プログラム

夏 期 (オンラインによる実施)	
<p>英語：ヨーク大学 (イギリス・ヨーク) -English Language and Culture 期 間：8月15日～8月26日 8月15日～9月2日 -English Language and Business 期 間：9月5日～9月16日</p>	<p>英語：チェンマイ大学 (タイ・チェンマイ) - English for Global Communication ～Session1～ 期 間：8月8日～8月19日 ～Session2～ 期 間：8月22日～9月2日 -Sustainable Development Goals + (Plus) ～Session1～ 期 間：8月15日～8月26日 ～Session2～ 期 間：8月29日～9月9日 ～Session3～ 期 間：9月5日～9月16日</p>
<p>東海大学 (台湾・台中) - Tunghai University 2022 Summer Online Language and Culture Program 期 間：8月8日～8月26日</p>	
春 期 (渡航による実施)	
<p>英語：ダブリンシティ大学 (アイルランド・ダブリン) 期 間：2月11日～3月12日 参加人数：20名</p>	<p>スペイン語：アルカラ大学アルカリングア (スペイン・アルカラ) 期 間：2月18日～3月13日 参加人数：3名</p>

⑤ 2022 年度その他の留学支援活動

夏期留学準備講座
<p>留学準備講座を企画、夏期に実施 学習内容：留学先大学の授業を受ける際に必要なスキル (Note Taking &amp; Effective Writing、Critical Reading &amp; Thinking、Discussion、Presentation) を学ぶ 期 間：8月2日～8月5日、10:00～11:30 (90分×4回) 参加人数：9名</p>

3. ウクライナからの留学生の受け入れ支援

一般財団法人パスウェイズ・ジャパン (PJ)、日本国際基督教大学財団 (JICUF) と共同して、学びの機会を失ったウクライナの学生を受け入れ、支援を行いました。学寮の居室を提供し、学費、寮経費のほか、渡航支援、生活支援を実施し、受け入れに必要とする支援は、企業等法人、個人からの寄付を募りました。「Service and Sacrifice (犠牲と奉仕)」の精神のもと、教職員、在学生、卒業生が協力して学びの環境を提供しています。

4. アジア・フォーラムの活動 ( [中期計画] 【IV】 国際交流：目標3 )

今年度はアジア・フォーラム特設サイトの枠組みを修正し、「アジアとつながる」のページから本学比較文化研究所、丸山眞男記念比較思想研究センター、女性学研究所、キリスト教センター、国際交流センターの各ページにリンクすることにより、本学で実施されているアジアに関する個別の活動を「アジア・フォーラム」として横断的に結びつけ、可視化を進めました。

## E. 学生支援

### 1. 学生生活支援

#### (1) 学修ポートフォリオの導入（〔中期計画〕【I】教学改革：目標2）

学生の学修状況、学生生活、就職活動などを可視化する学修ポートフォリオを2023年度後期から導入する準備を進めました。これにより、学生が自らを振り返り、自身の特性を客観的に把握することが容易になり、次学期以降の学修活動や今後の進路を考えるに際して大きな助けとなることが期待されます。

#### (2) 奨学金の充実

コロナ禍および物価高騰による影響を考慮し、家計の悪化により修学困難と陥らないよう、日本学生支援機構による給付若しくは貸与奨学金受給への支援や、本学独自の制度利用による家計急変時への経済的支援を行いました。

また、本学への入学が認められた時に奨学金を授与する予約型給付奨学金の採用枠を倍増し、本学への進学意欲の高い学生に対するサポートを充実させました。

#### 2022年度奨学金一覧

奨学金名称	種類	対象	金額等	2022年度受給者数		
				学部	大学院 (博士前期)	大学院 (博士後期)
「挑戦する知性」奨学金	給付	学業成績優秀であり、かつ経済的援助を必要とする者	学納金相当額および検察経費相当額 (検察経費相当額は入寮者のみ)	14		
				0 (家計急変)		
東京女子大学予約型給付奨学金	給付	一般選抜を受験する者。 学業成績優秀であり、かつ経済的援助を必要とする者	入学金相当額	21 (新1年)		
東京女子大学給付奨学金	給付	学業成績優秀であり、かつ経済的援助を必要とする者 (大学院には他に条件有。)	1年:20万円、2~4年:40万円 年間授業料相当額 または年間授業料の1/2相当額	46	7(※1)	4(※2)
安井てつ給付奨学金	給付	東京女子大学給付奨学金に申請した2~4年次で各学年最も成績が優秀な者	50万円	3		
東京女子大学貸与奨学金 (2019年度以前入学者)	貸与 (無利子)	経済的援助を必要とする者  (大学院には他に条件有。)	以下のいずれか 年間授業料相当額 年間授業料の2/3相当額 年間授業料の1/2相当額 年間授業料相当額 または年間授業料の1/2相当額	4		0
東京女子大学同窓会奨学金	貸与 (無利子)	人物・学業成績が優秀であり、経済的援助を必要とする者	年間授業料相当額	5		
太田奨学金	貸与 (無利子)	人物・学業成績が優秀で、家計急変により学業継続が著しく困難な状況にある者	年間授業料相当額	0		
国際交流奨学金	授与	成績等条件有	年間授業料相当額以内	0	2	0
		私費外国人留学生授業料減免制度(条件有)	授業料免除 (2022年度は減免率25%)	28	6	0
		本学の留学制度で留学する学生	協定校留学: 学部(授業のみ)32.5万円(半期) 大学院博士前期課程22万円(半期) 博士後期課程21.5万円(半期)	3	0	0
			協定校留学: 学部正規課程外英語授業及び学部授業25万円(半期)	4		
			認定校留学: 学部25万円(半期) 大学院博士前期課程17万円(半期) 博士後期課程16.5万円	0	0	0
		国際英語特別留学25万円(半期*渡航留学)	121			

			国際英語特別留学 15 万円 (半期*オンライン留学)	26		
新渡戸稲造国際奨学金	授与	高い目的意識と学力、語学力を備え、世界トップクラスの大学に本学の留学制度で留学する者	留学先大学授業料、渡航費用、準備金の一部(ただし上限は 600 万円)	4		
東南アジア広瀬弘忠国際奨学金	授与	東南アジア諸国の国籍を持つ私費外国人留学生	年額 100 万円併せて、創立 100 周年記念事業奨学金より授業料相当額	1		
A.K.ライシャワー学寮奨学金	授与	桜寮に入寮し寮生活における国際交流に貢献できる私費外国人留学生	学寮(桜寮)経費全額	7		
東京女子大学研究奨学金	給付	学業成績優秀であり、かつ将来専門分野での活躍が期待される者	学会、研究会等での研究発表等に必要の旅費相当額(年間上限 1 人 10 万円)		2	4
東京女子大学大学院育児支援奨学金	給付	研究と育児の両立を支援するため、授業出席・研究・学会発表等による二次保育にかかる費用の一部を奨学金として授与	支給限度額 1 日につき 1 家庭 1,700 円、申請者 1 人につき年間 5 万円)		0	0
川上貞子奨学金	給付	本学出身者で、学業優秀で研究を継続しようとする者(博士後期課程在籍又は進学予定者)	25 万円		0	1
ラッシュ記念短期貸付金	短期貸付金(無利子)返済期限1年以内	緊急に援助を必要とする者	1 人上限 20 万円	0	0	0

※1江口裕子大学院奨学生 2 名を含む ※2 江口裕子大学院奨学生 4 名を含む

### (3) 学生相談室による学生生活のサポートの多様化

青年期後期における心理的不安定な学生だけでなく、コロナ禍によって増加したメンタルヘルス不調者、近年増加傾向にある障がい学生への対応を対面、電話、オンラインを併用し実施しました。前年度に続き相談員を増員して相談体制を整え、学生のニーズに見合った支援を行ってきました。また、個人相談に加え、心理教育プログラム(ストレスマネジメントセミナー)も実施しました。

## 2. キャリア支援

### (1) コロナ禍における就職活動支援

新型コロナウイルス感染症が継続する一方、規制緩和が徐々に進んだことから、学生の関心の高いインターンシップについては、海外で行われるインターンシップの紹介も行いました。個人別の相談・支援については、オンラインによる支援と並行して対面による支援も行い、学生が状況により相談形式を選択できるようにしました。また、CareerTalk(チャット・カウンセリング)や遠隔操作型自走ロボットを用いたキャリア支援の実証実験を行うなど、最新のシステムも活用してきめ細かい支援を行いました。

### (2) 支援行事の強化

他大学と連携してオンラインで行う就職活動支援ゼミは、参加大学が前年の 4 女子大学から 9 女子大学まで拡大し、より幅広い学生相互支援のサイクルが生まれました。また、企業と連携したキャリアフェスをバーチャル空間上で行い、デジタルテクノロジーに触れる機会を提供しました。

### (3) 地方自治体と連携した取り組み

就職支援協定を締結した京都府と連携し、地方課題解決に取り組む低学年対象のワークショップをオンラインで行いました。地域の資源や特性を活かした地域振興というテーマに対しグループで解決に取り組み、実際に課題解決に取り組んでいる京都府・企業に提案を行いました。

こうした取り組みにより、自分のキャリアについて幅広い視点から考えることを促し、コロナ禍にあっても就職率 99.2% (前年度 99.4%) を確保することができました。

### 3. キリスト教センターの活動

本学では教育の一環として日々の礼拝をチャペルで行っています。2022年度はコロナの感染状況に応じてチャペルでの「日々の礼拝」を復活させ、礼拝を行わない曜日の同じ時間は「祈りの時間」としてチャペルを開放しました。

活動の制限を受けながらも、前期及び後期の宗教週間、アドヴェント・キャンドルサービス、クリスマスショップ&カフェを対面で実施し、卒業礼拝をオンデマンド動画配信で行い、コロナ以前の行事を行いました。また、キリスト教学担当教員3名と宗教主事による「昼の集会」を対面及びオンラインで行うなど、学生たちと語り合う時を持ち、学生たちとの交流を深めることができました。

なお、2019年以來となる対面でのクリスマスコンサート「メサイアとクリスマスキャロルの夕べ」を本学講堂で開催し、約450名の来場者がありました。

## F. 社会連携・地域貢献

---

### 1. 女性の生涯にわたるキャリア構築支援（〔中期計画〕【V】社会連携・地域貢献：目標2）

#### (1) エンパワーメント・センター事業の推進

生涯にわたる女性のライフキャリアの構築支援および共生社会の担い手の育成に対するエンパワーメント事業、社会での活躍機会の拡大を柱とし、キャリアコンサルタントによる個別キャリアカウンセリングを対面及びオンラインで実施（6日間、延べ24名利用）しました。また、女性のキャリア支援を目的とした「ライフキャリア支援講座」を計6回実施し、卒業生、一般の方、在学生などが参加しました。

#### (2) ビジネス・プランニング・コンテスト

高校生以上の女性を対象にした起業コンテスト「第6回ビジネス・プランニング・コンテスト」を実施しました。起業部門\*、アイデア部門\*\*あわせて25件の応募があり、そのうち6件が高校生からのエントリーでした。両部門を合わせて4件が入賞し表彰式を行いました。コンテストを通じて実際に起業に向かう女性が育っていくことを願っています。

\*起業部門：事業計画・資金計画が具体化されたプランニング

\*\*アイデア部門：資金計画には至らないが、具体化されたイメージがある斬新なアイデア

#### (3) 高等学校教科別セミナー

中学・高校の先生方に教育の新たな視点を提供することを目的として、本学教員の最新の研究成果や教育経験に基づく知見を公開する「高等学校教科別セミナー」を開催しています。8月に昨年度に引き続きオンラインで開催し、全国から85名の参加がありました。

### 2. 近隣の地方自治体との連携（〔中期計画〕【V】社会連携・地域貢献：目標1）

地域社会のニーズにこたえ、伝統的な知見と最新の研究成果を地域に還元し、社会に貢献する活動を行いました。

#### (1) 公開講座・講演会

本学の知的資源を活用した各種の公開講座や講演会などを実施することにより、地域の方をはじめ多くの方々に生涯学習の場を提供しました。

##### ① 杉並区内大学公開講座（大学・杉並区教育委員会共催）

「持続可能な社会とコミュニティ」（藤稿亜矢子/矢ヶ崎紀子/関村オリエ 各教授、靱山真人特任教授）を11月に1日4コマのオンライン講座で実施しました。時流に合ったテ

ーマで「上辺に走るメディア報道で国民の理解度はまだまだ低い状況ですから役に立ちました。」などの感想が寄せられました。受講者の76%が初回受講者、44%が20代以下と、新たな受講者層を掘り起こすことができました。

② ブリティッシュ・カウンシル社会人英語講座

ブリティッシュ・カウンシルより派遣された講師によるオンライン講座を昨年4月から今年1月まで全24回実施し、68名が受講しました。

③ 高校生のための公開講座

最新トピックを切り口に大学での専門の学びに触れる講座として、「なぜ航空機は最短ルートを飛行しないのか？－国際法の視点から「空の自由」を考える－」（根本和幸准教授）を7月にオンラインで実施し、全国から50名の高校生が受講しました。想像のしやすい航空機の「なぜ」について考えていくことで、高校生にとって難しく感じられる国際法も身近なものとして興味をもってもらうことができました。

④ 夏季特別講座

「ウイズ・アフターコロナ時代の健康・身体運動の教育と科学」（曾我芳枝教授、藤田恵理特任講師）を9月にオンラインで開講し32名が受講しました。コロナ禍という時勢に合わせたテーマが好評でした。講座を受講し、生活習慣を見直すきっかけとなったという声が多く寄せられました。

(2) 近隣の大学や地方自治体との共同事業等

地域のニーズを捉え、杉並区、武蔵野市、三鷹市と連携し、講座の開講、各種事業等への協力、講師の派遣を行いました。

① 杉並区発達障害児地域支援講座

発達障害の当事者や支援者への学習と実践交流の場として杉並区立こども発達センターが行う地域支援講座に、杉並区と東京女子大学が連携協働し、本学は2コマのオンデマンド講演会を2回実施しそれぞれ270名、480名を超える申し込みがありました。12月には対面の実践報告会が行われ、88名の参加がありました。実施内容は以下の通りです。

第1回講演会（オンデマンド）「子どもの育ちに遊びはなぜ大切か」（東京都立大学准教授 田中浩司氏）、第2回講演会（オンデマンド）「発達に偏りのあるこどもを育てる-保護者のこころ-」（白梅学園大学発達・教育相談室相談員 沼田あや子氏）、実践報告会「連携を子ども支援・家族支援に活かすために-幼稚園・保育園等と発達支援事業所のこころみ-」（勝盛宏氏 河北総合病院副院長 他）

② 西荻図書館読書週間記念講演会

「学校卒業後の学問-丸山眞男の議論から-」（山辺春彦特任講師）

11月に対面で開催し、社会人として生きていく上で、学問はどのような意味をもつのか、思想史家・丸山眞男の議論を手がかりに考える講演を行いました。

③ 武蔵野五大学共同教養講座

「大河ドラマに見る戦後日本人の歴史認識とその変遷」（大江洋代准教授）

10月に対面で開催し82名の参加がありました。大河ドラマという親しみやすい素材を使って、分かりやすい解説と講師の総括は、受講者に好評を得ました。

④ 武蔵野五大学共同講演会

「国際退職移動-親密圏を求めて-」（上野加代子教授）

10月にオンデマンド形式で実施し、23名の参加がありました。医療、年金制度等を含め

た退職移動の実現可能性について、わかりやすくまとめられ、受講者の大半である退職前後世代の関心に応えました。

⑤ 三鷹ネットワーク大学年間企画

全12回東京女子大学寄附講座「数学はこんなに面白い!」「数学カフェみたか」(小林一章名誉教授)

東京女子大学企画講座(対面講座):3月「舞鶴引揚記念館とユネスコ世界記憶遺産一歴史を知り、学び、継承する場としての歴史博物館」(黒沢文貴名誉教授)

### 3. 同窓会・卒業生との連携強化(〔中期計画〕【V】社会連携・地域貢献:目標2)

本学はこれまでに6万6千人を超える卒業生を社会に送り出して来ました。同窓会の2020年からの3年間を「同窓会100周年記念年間」とする活動に対し、未だコロナ禍の制約が残るなか、開催行事への協力や資料提供などを行いました。

本学を卒業される皆様には卒業後も同窓会の活動や本学との繋がりをお持ち頂けるよう、公開講座やクリスマスコンサートの案内等、本学の状況、情報を積極的にお伝えしてまいります。また、後輩となる学生の支援を宜しくお願いいたします。

## G. 広報の強化

---

### 1. 公式サイトとSNSを連動した情報発信の強化

大学案内や広報誌VERAに掲載した記事を再編集して公式サイトのコテンツの充実を図ったほか、2021年度から強化しているSNSの発信をより一層充実させました。入学式や卒業式、クリスマスなどのイベントの発信に加え、オープンキャンパス開催期や出願期、合格発表の時期など、時期に応じて学生個人や公認サークルにインタビューを行い、学生の声を受験生に届ける記事を掲載しました。

### 2. 進学相談会、高校訪問の再開

コロナ禍以降実施できていなかった1都3県以外の高校教員や受験生とのコンタクトに力を入れました。高校訪問では訪問件数全体の6割弱を、進学相談会では全体の3割程度を1都3県以外で実施しました。

### 3. 教学改革の広報強化

2024年度からの教学改革の第一段階に関する広報をスタートさせ、公式プレスリリース、特設サイトの開設を行いました。長年の伝統と実績に裏打ちされた本学のリベラルアーツ教育はさらなる進化を図ります。適切で効果的な広報を行ってまいります。

### 4. 国際女性デー広告出稿

—知性と行動力をもつ自立した女性の育成—

3月8日国際女性デーにちなみ、本学のブランド力向上と今後の取り組みについての認知拡大を図ることを目的として、本学の広告を朝日新聞に出稿しました。

## H. 教育研究環境

---

### 1. 教育・学修支援センターの設置（〔中期計画〕【I】教学改革：目標4、【VI】アクションを支える体制の充実：目標1）

ICT（情報通信技術）を活用した教育活動の改善と発展および質の高い学修支援を継続的に行うことを目的として、2022年4月に「教育・学修支援センター」を設置しました。学生の学修を支援し、また教員の教育活動の継続的な改善と発展を実現するため、各種ワークショップの開催やICT学修／授業支援コンテンツなどを充実させて情報発信を行いました。3月には、教員向けに「アクティブラーニング体験型ワークショップ」を実施しました。

### 2. デジタル化戦略

デジタル技術を活用した教育支援体制の高度化を図るため、e-learningの強化、学修ポートフォリオの導入に向けた準備、ハイフレックス授業の環境整備を進めました。また、教育・学修支援センターの発足による授業支援体制の充実、2023年度のSINETへの接続を中心とした学内外のネットワーク環境の改善など、学内のさらなるデジタル化に向けて取り組みました。また、教職員は学内会議のオンライン開催やグループウェアの利活用を進め、円滑で即時性の高い情報共有、意思決定を実現しました。あわせて、紙媒体による情報共有の大幅削減を実現し、環境保全・SDGs活動を推進しました。

### 3. 教育研究関係設備の整備（〔中期計画〕【I】教学改革：目標4、【VI】アクションを支える体制の充実：目標1）

#### （1）アカウント統合管理システムの導入

強固なセキュリティの認証基盤を構築するとともにアカウント管理を統合することで同一パスワードを複数のシステムで安全に使用できるようにするシステムを導入し、学生・教職員の利便性向上を図るための準備を行い、翌年度の導入への目途を立てました。

#### （2）SINET接続および対外接続回線の整理

国内の大学、研究機関等の学術情報基盤として国立情報学研究所が運用する学術情報ネットワーク（SINET）に接続し、データサイエンス教育ならびに先端学術研究の推進に資するよう超高速かつ安定した接続を実現するための準備を行いました。接続後はこれまで複数あった対外接続回線が整理され、耐障害性が高まります。

#### （3）視聴覚設備のデジタル化推進

教室棟の中継設備の更新を行い、教室間の映像や音声の配信の改善を図り、授業運営や行事開催の可能性を広げました。その他、体育館のプロジェクターの更新、講堂からの映像・音声の中継機器（カメラ・モニター）のデジタル化などの設備更新を行いました。

### 4. 図書館—新たな機能・役割に向けた取り組み—

#### （1）蔵書構築および多様な情報媒体（電子リソース）の積極的な導入

利用者からの購入希望や書店店頭での選書ツアーなど、利用者のニーズに沿った選書を実施しました。選書ツアー参加者により作成された本の紹介POPの館内展示や、OPACでの紹介により利用促進にもつなげています。

また電子リソースの充実に努めました。中でも電子ブックについては洋書を中心に拡充をすすめ、年間受け入れタイトル数が前年度比250%と充実を図りました（2022年度：661タイトル、2021年度：263タイトル）。コロナ禍を経て重要性が高まった非来館型サービスにもつながり、利用者の利便性が向上しました。

## (2) 図書館の利用推進

- ・ウクライナ情勢に鑑み、戦争・平和・文化・社会について学生と語り合うための資料展示やミニレクチャー（計3回）を実施しました。全体を通して延べ200名程度の学生・教職員が参加し、身近な問題として考えるきっかけとなったと好評を博しました。
- ・図書館 Web サイトの更新を行いました。また、資料の検索方法や、電子リソースを含む多様化する情報源の活用法など、学修の一助となるページや動画、マニュアル等のコンテンツを充実させました。

## (3) 安全で快適な利用環境の整備

入退館ゲートを更新したことにより、よりスムーズに入退館可能となりました。

電動書架は更新を機に進捗感知センサーを片側付帯から両側付帯に変更し、書架上段には感度式書籍落下防止装置を取り付けました。これにより安全性、耐震性が向上しました。

なお、電動書架更新については、令和4年度私立大学等研究設備整備費等補助金（私立大学等研究設備等整備費）の交付を受けています。

## 5. 学生ホール（11号館大食堂）のリニューアル

1997年の竣工時以来のテーブル、いすを刷新し、食堂内の動線を見直して、大々的なリニューアルを行いました。通路を広くしてゆったりした空間を創出し、一般的な対面式テーブルの他にソファ席、ひとり席、カウンター席などいろいろなタイプの座席を用意し、人数や目的に応じて自由に席を選ぶことができるようになりました。さらに要望が多かった電源コンセント付きのテーブルを多数導入したことも相俟って好評を得ています。

## 6. 建物の保全（〔中期計画〕【VI】アクションを支える体制の充実：目標1）

文化財の指定を受けている施設も数多くあるなか、施設ごとに安全性の向上、環境保全に資する施策を実施しています。

また、エネルギー消費量の大きい空調設備について大規模な更新を順次行っています。2022年度は24号館（教室棟）の空調方式をEHPに変更する工事を行い、効率的なエネルギー活用を実現しました。加えて、必要となる電力系統ごとの電力量を満たすよう、変電施設を新設し、安定的に電力を供給できるようになりました。

## I. 管理・運営

---

### 1. 組織・運営体制の強化（〔中期計画〕【VI】アクションを支える体制の充実：目標2）

変化する社会の要請にこたえ得る大学であり続けるために、長期的な展望に基づいた大学運営を目指して以下の取り組みを行いました。

- ・教職協働による教育改革を推進するため、職員の能力向上を図るSD活動を行いました。また各委員会を教職協働で運営するため、委員会の構成を見直し、必要な規程の改正を行いました。
- ・2021年度に立ち上げた各課横断型のワーキンググループを中心に、グループウェアを活用して、情報の一元化、教職員間の情報共有を一層進め、業務の効率化に結びました。
- ・若手職員を対象に大学のDXを考える研修を通して、柔軟な発想で考える力を培い、重要な事柄に注力する体制構築のための意識改革に取り組みました。
- ・近隣大学と、情報共有・情報交換を行い業務改善に資する目的で合同研修を行いました。

異なる視点で業務を捉え、職員同士の交流も行うことができました。

- ・女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を策定しました。超過勤務削減に取り組むとともに、女性のみならず教職員全体のワーク・ライフ・バランスの改善を図ってまいります。

## 2. 経営基盤の強化（〔中期計画〕【VI】アクションを支える体制の充実：目標3）

教育改革と施設設備の改善を支える財政状態の維持とその向上に向けて、以下の施策を実施しています。

- ① 他大学に劣後しない財務体質構築のため、事業活動収支の均衡を図るとともに、予算編成の進め方を見直す。
- ② 教育研究の重点施策および魅力あるキャンパス形成に重点的に資金を充当する。
- ③ 外部資金（国庫助成金、科学研究費、共同研究、ご寄付等）の受け入れ拡大に向けた働きかけを強化する。

## J. その他

---

### 1. 維持協力会

維持協力会は本学の教育の充実と発展のための募金活動を行う組織として1994年に設立されました。当会への寄付は、会の運営経費を除いた全額が東京女子大学に寄付金されます。創立90周年を迎えた2008年度以降、大学として頂きましたご寄付はすべて学生奨学金に充当しています。2022年度に維持協力会が受け入れたご寄付は同窓生を中心に約2,800万円でした。

## K. 今後の課題

---

新しい時代を切り拓く自立した女性を育成するため、本学の伝統であるリベラルアーツ教育を深化・充実させ、国際性、女性の視点、実践的な学びを全学的に展開してまいります。特に次の項目を重点的施策として進めます。

- (1) 学部教育の改革
- (2) 学習指導要領の改訂も踏まえた高大連携の強化
- (3) 社会のグローバル化に対応する教育
- (4) 社会のデジタル化に対応する教育
- (5) 社会との連携、地域活性化に貢献する教育
- (6) 本学の目指す人材育成、リベラルアーツ教育が伝わる広報
- (7) 教育活動を支える財務基盤の強化

## L. 教学に関するデータ

### (1) 入学試験の状況 (2023 年度入学試験)

#### ①学部 2023 年度入学試験 (1 年次入学者)

現代教養学部

人

学科・専攻		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
国際英語学科	国際英語専攻	130	973	946	608	134
人文学科	哲学専攻	205	283	278	133	40
	日本文学専攻		711	699	394	97
	歴史文化専攻		712	695	333	91
国際社会科学科	国際関係専攻	284	787	762	433	117
	経済学専攻		760	742	426	90
	社会学専攻		563	543	305	49
	コミュニティ構想専攻		527	519	287	57
心理・コミュニケーション学科	心理学専攻	200	790	780	336	90
	コミュニケーション専攻		958	940	431	130
数理科学科	数学専攻	71	333	325	215	31
	情報理学専攻		443	429	191	41
合計		890	7840	7658	4092	967

\*一般選抜（個別学力試験型・英語外部検定試験利用型）追試験での志願者数・受験者数を含む。

#### ②学部 2023 年度一般編入学・学士入学試験 (3 年次入学)

現代教養学部

人

学科・専攻		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
国際英語学科	国際英語専攻	7	7	1	1
人文学科	哲学専攻	5	5	5	3
	日本文学専攻	0	0	0	0
	歴史文化専攻	1	1	1	1
国際社会科学科	国際関係専攻	10	9	6	3
	経済学専攻	0	0	0	0
	社会学専攻	11	9	2	2
	コミュニティ構想専攻	3	3	3	3
心理・コミュニケーション学科	心理学専攻	3	3	1	1
	コミュニケーション専攻	4	3	1	1
数理科学科	数学専攻	0	0	0	0
	情報理学専攻	2	2	2	2
合計		46	42	22	17

③学部 2023 年度社会人編入学・学士入学試験 (2 年次入学)  
現代教養学部 情報理学専攻 志願者数 1 受験者数・合格者数・入学者数 0

④大学院博士前期課程 2023 年度入学試験

人

研究科・専攻・分野		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
人間科学 研究科	人間文化 科学専攻	哲学・思想文化分野	3	4	4	2	2
		日本文学文化分野	6	5	5	4	4
		英語文学文化分野	6	0	0	0	0
		歴史文化分野	4	3	3	3	3
		現代日本語・日本語教育分野	3	6	6	2	2
	人間社会 科学専攻	臨床心理学分野	7	44	37*	12	11
		心理・コミュニケーション科学分野	5	8	8	4	4
グローバル共生社会分野		8	17	14	6	4	
理学 研究科	数学専攻	理論数理学分野	6	1	0	0	
		応用数理学分野		4	3	3	
合 計		48	92	81	36	33	

\*一般入学試験 (1 月期) については、第二次試験受験者数。第一次試験 (事前課題・研究計画書・卒業論文に関わる提出書類) の合格者のみ第二次試験 (口述試験) を実施。

⑤大学院博士後期課程 2023 年度入学試験

人

研究科・専攻		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
人間科学 研究科	人間文化科学専攻	4	3	2	1	1
	生涯人間科学専攻	5	2	2	1	0
	小計	9	5	4	2	1
理学研究科	数学専攻	3	1	1	1	1
合 計		12	6	5	3	2

## (2) 卒業・修了者数 (2022 年度)

人

学 部 ・ 学 科 等	2022 年 9 月 卒業・修了	2023 年 3 月 卒業・修了
現代教養学部		
国際英語学科 国際英語専攻	2	135
人文学科 哲学専攻	-	35
日本文学専攻	3	95
英語文学文化専攻	0	1
歴史文化専攻	2	70
史学専攻	-	2
国際社会学科 国際関係専攻	2	94
経済学専攻	-	60
社会学専攻	1	53
コミュニティ構想専攻	-	44
心理・コミュニケーション専攻 心理学専攻	1	79
コミュニケーション専攻	-	107
人間科学科 心理学専攻	-	1
コミュニケーション専攻	1	0
言語科学専攻	-	1
数理科学科 数学専攻	-	45
情報理学専攻	-	37
小 計	12	859
大 学 院(博士前期課程)		
人間科学研究科 人間文化科学専攻	0	18
人間社会科学専攻	0	12
理学研究科 数学専攻	0	9
小 計	0	39
大 学 院(博士後期課程)		
人間科学研究科 人間文化科学専攻	0	1
生涯人間科学専攻	0	1
理学研究科 数学専攻	0	0
小 計	0	2
学部・大学院合計	12	900

(3) 就職・進学状況

① 2023年3月現代教養学部卒業の進路決定状況

学部	学科	コース	卒業者数	就職希望者数	就職者数 (就職率※)	進学者数	その他
現代 教養 学部	国際英語学科	国際英語専攻	135	119(88.1%)	119(100.0%)	2(1.5%)	14(10.4%)
	国際英語学科(計)		135	119(88.1%)	119(100.0%)	2(1.5%)	14(10.4%)
	人文学科	哲学専攻	35	31(88.6%)	31(100.0%)	3(8.6%)	1(2.9%)
		日本文学専攻	95	85(89.5%)	85(100.0%)	8(8.4%)	2(2.1%)
		英語文学文化専攻	1	1(100.0%)	1(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		史学専攻(*)	2	1(50.0%)	1(100.0%)	0(0.0%)	1(50.0%)
		歴史文化専攻	70	61(87.1%)	61(100.0%)	4(5.7%)	5(7.1%)
	人文学科(計)		203	179(88.2%)	179(100.0%)	15(7.4%)	9(4.4%)
	国際社会学科	国際関係専攻	94	82(87.2%)	80(97.6%)	1(1.1%)	11(11.7%)
		経済学専攻	60	56(93.3%)	55(98.2%)	1(1.7%)	3(5.0%)
		社会学専攻	53	49(92.5%)	48(98.0%)	1(1.9%)	3(5.7%)
		コミュニティ構想専攻	44	42(95.5%)	42(100.0%)	1(2.3%)	1(2.3%)
	国際社会学科(計)		251	229(91.2%)	225(98.3%)	4(1.6%)	18(7.2%)
	人間科学科(*)	心理学専攻	1	1(100.0%)	1(100.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
		言語科学専攻	1	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(100.0%)
	人間科学科(計)		2	1(50.0%)	1(100.0%)	0(0.0%)	1(50.0%)
	心理・コミュニケーション学科	心理学専攻	79	63(79.7%)	63(100.0%)	11(13.9%)	5(6.3%)
		コミュニケーション	107	100(93.5%)	99(99.0%)	4(3.7%)	3(2.8%)
	心理・コミュニケーション学科(計)		186	163(87.6%)	162(99.4%)	15(8.1%)	8(4.3%)
	数理科学科	数学専攻	45	40(88.9%)	39(97.5%)	4(8.9%)	1(2.2%)
情報理学専攻		37	33(89.2%)	33(100.0%)	3(8.1%)	1(2.7%)	
数理科学科(計)		82	73(89.0%)	72(98.6%)	7(8.5%)	2(2.4%)	
合計			859	764(88.9%)	758(99.2%)	43(5.0%)	52(6.1%)

(※) 就職者数/就職希望者数 (%)

(\*) 改組により 2018 年度に募集停止

②2023年3月大学院博士前期課程修了者の進路決定状況

研究科	専攻	分野	修了者数	就職希望者数	就職者数	進学者数	その他
人間科学 研究科	人間文化 科学専攻	哲学・思想文化分野	4	4	4	0	0
		日本文学文化分野	8	7	7	0	1
		英語文学文化分野	2	2	2	0	0
		歴史文化分野	2	2	2	0	0
		現代日本語・日本語教育分野	2	2	2	0	0
	人間文化科学専攻(計)		18	17	17	0	1
	人間社会 科学専攻	臨床心理学分野	5	5	5	0	0
		心理・コミュニケーション科学分野	2	2	2	0	0
		グローバル共生社会分野	5	2	1	0	3
	人間社会科学専攻(計)		12	9	8	0	3
人間科学研究科(計)			30	26	25	0	4

理学研究科	数学専攻	理論数理学分野	3	3	3	0	0
		応用数理学分野	6	5	5	1	0
	数学専攻(計)		9	8	8	1	0
理学研究科(計)			9	8	8	1	0
合計			39	34	33	1	4

③2023年3月大学院博士後期課程修了者の進路決定状況

研究科	専攻	修了者数	就職希望者数	就職者数	進学者数	その他
人間科学研究科	人間文化科学専攻	1	1	1	0	0
	生涯人間科学専攻	1	0	0	0	1
人間科学研究科(計)		2	1	1	0	1
理学研究科	数学専攻	0	—	—	—	—
理学研究科(計)		0	—	—	—	—
合計		2	1	1	0	1

(4) 学費その他納入金

① 学部 入学金、学費及び在籍料

費 目		金 額	備 考
入 学 金		200,000 円	
		100,000 円	本学及び東京女子大学短期大学部に在籍していた者
学 費	授 業 料	760,000 円	年 額
	教育充実費	300,000 円	国際英語学科 年 額
		260,000 円	国際英語学科以外の学科 年 額
在 籍 料		140,000 円	年 額

注 1 学期間の休学に係る在籍料は年額の2分の1とする。

②大学院(博士前期課程) 入学金、学費及び在籍料

費 目		金 額	備 考
入 学 金		240,000 円	
		120,000 円	本学及び本学短期大学部に在籍していた者
		0 円	本学の修士課程・博士前期課程に在籍していた者
学 費	授 業 料	540,000 円	年 額
	教育充実費	150,000 円	年 額
在 籍 料		100,000 円	年 額

注 1 学期間の休学に係る在籍料は年額の2分の1とする。

③大学院(博士後期課程) 入学金、学費及び在籍料

費 目		金 額	備 考
入 学 金		200,000 円	
		100,000 円	本学及び本学短期大学部に在籍していた者
		0 円	本学の修士課程・博士前期課程、博士後期課程に在籍していた者
学費	授 業 料	540,000 円	年 額
	教育充実費	130,000 円	年 額
在 籍 料		100,000 円	年 額

注 1 学期間の休学に係る在籍料は年額の2分の1とする。

### Ⅲ. 財務の概要

#### 1. 2022年度決算

##### (1) 資金収支計算書(活動区分資金収支計算書)

<資金収支計算書>

(単位: 百万円)

科目		2022年度 予算	2022年度 決算	2021年度 決算	決算 差異	科目		2022年度 予算	2022年度 決算	2021年度 決算	決算 差異
収入	学生生徒等納付金収入	4,061	4,179	4,200	△ 20	支出	人件費支出	3,009	3,026	3,013	12
	手数料収入	190	183	210	△ 26		教育研究経費支出	1,473	1,316	1,202	114
	寄付金収入	110	159	130	28		管理経費支出	409	379	362	17
	補助金収入	401	486	449	36		借入金等利息支出	0	0	0	0
	資産売却収入	650	1,023	640	383		借入金等返済支出	60	60	60	0
	付随事業・収益事業収入	140	146	136	9		施設関係支出	417	275	131	144
	受取利息・配当金収入	73	93	89	4		設備関係支出	136	111	93	17
	雑収入	111	220	162	57		資産運用支出	729	810	1,617	△ 807
	借入金等収入	44	55	69	△ 14		その他の支出	234	159	139	20
	前受金収入	773	801	842	△ 40		【予備費】	90	0	0	0
	その他の収入	246	355	245	110		資金支出調整勘定	△ 97	△ 60	△ 62	2
	資金収入調整勘定	△ 855	△ 1,023	△ 883	△ 139		翌年度繰越支払資金	3,680	4,568	3,965	603
	前年度繰越支払資金	4,196	3,965	4,230	△ 265		支出の部合計	10,142	10,648	10,524	123
	収入の部合計	10,142	10,648	10,524	123						

注)表示額は100万円未満を切り捨てているため、合計額又は差異額は、表示額の合計又は差異とは、必ずしも一致しません。

<活動区分資金収支計算書 \* >

(単位: 百万円)

科目		2022年度 決算	2021年度 決算	決算 差異	科目		2022年度 決算	2021年度 決算	決算 差異
収入	教育活動資金収入	5,333	5,280	53	支出	教育活動資金支出	4,723	4,579	143
	施設整備等活動資金収入	87	61	25		施設整備等活動資金支出	561	831	△ 270
	その他の活動資金収入	1,352	896	455		その他の活動資金支出	731	1,090	△ 358

\*「資金収支計算書の決算額を「教育活動」、「施設整備等活動」、「その他の活動」の3つの活動区分ごとに振り分け、活動ごとの資金の流れを明らかにする。

注)表示額は100万円未満を切り捨てているため、合計額又は差異額は、表示額の合計又は差異とは、必ずしも一致しません。

収入の部の主な内訳としては教育活動資金収入が5,333百万円、施設整備等活動資金収入が87百万円、その他の活動資金収入が1,352百万円となりました。支出の部の主な内訳としては、教育活動資金支出が4,723百万円、施設整備等活動資金支出が561百万円、その他の活動資金支出が731百万円となりました。

##### (2) 事業活動収支計算書

2022年度事業活動収入は5,471百万円で、前年度比98百万円の増収となりました。この要因は次の通りです。

学生生徒等納付金は、国の「私立大学の入学定員管理の厳格化」政策により、本学でも入学者数および在籍学生数について適正な定員管理に努めたことに伴い、学生数減により減収、手数料は、志願者数減により減収となりました。寄付金は、教育活動収支「寄付金」額と特別収支「その他の特別収入」に計上されている寄付金額の合計175百万円で、前年度比33百万円の増収となりました。経常費等補助金は、前年度比19百万円の増収となりました。雑収入は、退職金財団交付金増等により57百万円の増収となりました。

2022年度事業活動支出は5,189百万円で、前年度比81百万円の増加となりました。この要因は次の通りです。

人件費は2,921百万円で、前年度比32百万円の減少。職員人件費の減少等によるものです。教育研究経費は1,741百万円で前年度比90百万円の増加。これは奨学金及び光熱水費増等によるものです。管理経費は509百万円で前年度比17百万円の増加。食堂什器の更新及び光熱水費増等によるものです。

基本金組入額は、キャンパス整備計画に基づく第2号基本金組入れ額です。

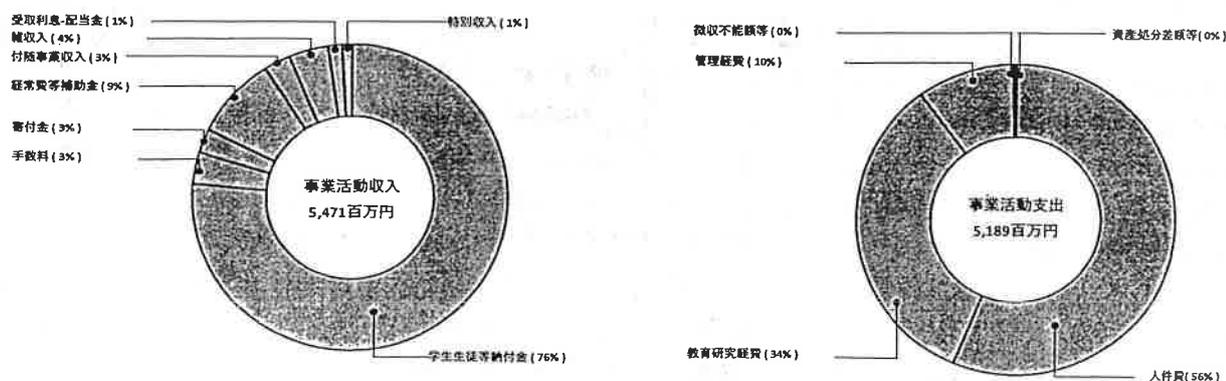
以上の結果、基本金組入前当年度収支差額は、前年度比17百万円の増、基本金組入後の当年度収支差額は前年度比157百万円の増となり、前年度繰越収支差額に当年度基本金取崩額及び当年度収支差額を加算した翌年度繰越収支差額は、1,983百万円となりました。今後とも財政状態の向上、安定した経営基盤の実現に努めてまいります。

(単位:百万円)

科目		2022年度 予算	2022年度 決算	2021年度 決算	決算 差異	科目		2022年度 予算	2022年度 決算	2021年度 決算	決算 差異		
教育活動収支	収入の活動	学生生徒等納付金	4,061	4,179	4,200	△ 20	特別収支	収入の活動	資産売却差額	0	0	0	0
		手数料	190	183	210	△ 26		収入の活動	その他の特別収入	23	55	18	36
		寄付金	91	138	123	15		収入の活動	特別収入計	23	55	18	36
		経常費等補助金	401	469	449	19		支出の活動	資産処分差額	1	14	8	6
		付随事業収入	140	146	136	9		支出の活動	その他の特別支出	0	0	0	0
		雑収入	111	220	162	57		支出の活動	特別支出計	1	14	8	6
		教育活動収入計	4,995	5,338	5,284	53		特別収支差額		21	40	10	30
	支出の活動	人件費	2,942	2,921	2,954	△ 32		予備費		90	0	0	0
		教育研究経費	1,895	1,741	1,651	90		基本金組入前当年度収支差額		△ 367	281	264	17
		管理経費	527	509	492	17		基本金組入額合計		△ 741	△ 212	△ 352	139
徴収不能額等		3	2	2	0	当年度収支差額		△ 1,108	68	△ 88	157		
教育活動支出計	5,368	5,175	5,099	75	前年度繰越収支差額		1,898	1,914	2,002	△ 88			
教育活動収支差額	△ 372	163	184	△ 21	基本金取崩額		0	0	0	0			
教育活動外収支	収入の活動	受取利息・配当金	73	77	69	8	翌年度繰越収支差額		789	1,983	1,914	68	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	事業活動収入計		5,091	5,471	5,372	98	
		教育活動外収入計	73	77	69	8	事業活動支出計		5,459	5,189	5,108	81	
	支出の活動	借入金等利息	0	0	0	0							
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0							
		教育活動外支出計	0	0	0	0							
教育活動外収支差額	73	77	69	8									
経常収支差額	△ 299	241	254	△ 12									

注)表示額は100万円未満を切り捨てているため、合計額又は差異額は、表示額の合計又は差異とは、必ずしも一致しません。

## &lt;事業活動収支の構成比率&gt;



## (3) 貸借対照表

総資産は32,810百万円で、流動資産の増加を主体に前年度比62百万円増加しました。負債は退職給与引当金の減少を主体に前年度比219百万円減少しました。純資産は281百万円増の28,764百万円となり、総資産に占める比率は87.7%、前年度比0.7%増加しました。

科目				科目			
	2022年度 決算	2021年度 決算	増減		2022年度 決算	2021年度 決算	増減
固定資産	27,997	28,615	△ 618	固定負債	3,008	3,162	△ 153
有形固定資産	12,803	12,979	△ 176	流動負債	1,036	1,102	△ 66
特定資産	14,246	14,246	0	負債の部合計	4,045	4,265	△ 219
その他の固定資産	947	1,389	△ 441	基本金	26,781	26,568	212
流動資産	4,812	4,132	680	繰越収支差額	1,983	1,914	68
資産の部合計	32,810	32,748	62	純資産の部合計	28,764	28,483	281
				負債及び純資産の部合計	32,810	32,748	62

注)表示額は100万円未満を切り捨てているため、合計額又は増減額は、表示額の合計又は増減とは、必ずしも一致しません。

## &lt;基本金&gt;

学校法人がその諸活動の計画に基づき、必要な資産を継続的に保持するために組み入れた額

第1号基本金: 学校法人が設立当初に取得した固定資産の額又は新たな学校の設置や既設の学校の規模の拡大、教育の充実に向上のために取得した固定資産の額

第2号基本金: 将来の固定資産の取得に充てるために積み立てる金銭等の資産の額

第3号基本金: 基金(奨学基金、研究基金、国際交流基金等)として継続的に保持・運用する金銭等の資産の額

第4号基本金: 恒常的に保持すべき資金(1か月分の運転資金の額)

## 2. 経年比較

### (1) 資金収支計算書

(単位:百万円)

科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
学生生徒等納付金収入	4,654	4,506	4,351	4,200	4,179
手数料収入	247	209	175	210	183
寄付金収入	535	200	145	130	159
補助金収入	340	308	427	449	486
資産売却収入	500	600	600	640	1,023
付随事業・収益事業収入	198	180	55	136	146
受取利息・配当金収入	87	94	86	89	93
雑収入	232	284	122	162	220
借入金等収入	62	51	0	69	55
前受金収入	796	773	752	842	801
その他の収入	255	274	343	245	355
資金収入調整勘定	△ 1,065	△ 1,031	△ 869	△ 883	△ 1,023
前年度繰越支払資金	3,716	4,097	4,092	4,230	3,965
収入の部合計	10,562	10,551	10,282	10,524	10,648

科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
人件費支出	3,135	3,190	2,936	3,013	3,026
教育研究経費支出	1,231	1,204	1,182	1,202	1,316
管理経費支出	374	393	361	362	379
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	62	57	67	60	60
施設関係支出	95	49	17	131	275
設備関係支出	156	337	113	93	111
資産運用支出	1,381	1,342	1,322	1,617	810
その他の支出	151	122	130	139	159
資金支出調整勘定	△ 122	△ 240	△ 79	△ 62	△ 60
翌年度繰越支払資金	4,097	4,092	4,230	3,965	4,568
支出の部合計	10,562	10,551	10,282	10,524	10,648

注)表示額は100万円未満を切り捨てているため、合計額は表示額の合計とは必ずしも一致しません。

### 〈活動区分資金収支計算書〉

(単位:百万円)

科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
①教育活動資金収支差額	1,283	797	895	759	534
教育活動資金収入計	6,187	5,669	5,260	5,280	5,333
教育活動資金支出計	4,740	4,789	4,480	4,579	4,723
調整勘定等	△ 163	△ 82	115	57	△ 75
②施設設備等活動資金収支差額	△ 648	△ 691	△ 646	△ 830	△ 552
施設整備等活動資金収入計	66	43	27	61	87
施設整備等活動資金支出計	758	892	637	831	561
調整勘定等	42	157	△ 37	△ 61	△ 77
③小計(=①+②)	634	106	249	△ 71	△ 17
④その他の活動資金収支差額	△ 253	△ 111	△ 111	△ 193	620
その他の活動資金収入計	737	822	783	896	1,352
その他の活動資金支出計	991	933	895	1,090	731
調整勘定等	0	0	0	0	0
⑤支払資金の増減額(=③+④)	381	△ 4	137	△ 265	603
⑥前年度繰越支払資金	3,716	4,097	4,092	4,230	3,965
⑦翌年度繰越支払資金(=⑤+⑥)	4,097	4,092	4,230	3,965	4,568

注)表示額は100万円未満を切り捨てているため、合計額は表示額の合計とは必ずしも一致しません。

## (2) 事業活動収支計算書

(単位:百万円)

科目		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
教育活動収支	収入の活動	学生生徒等納付金	4,654	4,506	4,351	4,200	4,179
		手数料	247	209	175	210	183
		寄付金	517	183	132	123	138
		経常費等補助金	340	308	427	449	469
		付随事業収入	198	180	55	136	146
		雑収入	232	284	122	162	220
	教育活動収入計	6,190	5,672	5,264	5,284	5,338	
	支出の活動	人件費	3,149	3,277	2,912	2,954	2,921
		教育研究経費	1,712	1,702	1,658	1,651	1,741
		管理経費	528	547	496	492	509
		徴収不能額等	0	1	3	2	2
教育活動支出計	5,389	5,529	5,071	5,099	5,175		
教育活動収支差額	800	143	192	184	163		
教育活動外収支	収入の活動	受取利息・配当金	62	68	63	69	77
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	62	68	63	69	77
	支出の活動	借入金等利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額	62	68	63	69	77		
経常収支差額	862	211	256	254	241		
特別収支	収入の活動	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	86	34	34	18	55
		特別収入計	86	34	34	18	55
	支出の活動	資産処分差額	24	19	9	8	14
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計	24	19	9	8	14
特別収支差額	62	15	24	10	40		
予備費	0	0	0	0	0		
基本金組入前当年度収支差額	925	226	281	264	281		
基本金組入額合計	△ 209	△ 325	△ 341	△ 352	△ 212		
当年度収支差額	715	△ 98	△ 59	△ 88	68		
前年度繰越収支差額	1,344	2,153	2,055	2,002	1,914		
基本金取崩額	92	0	7	0	0		
翌年度繰越収支差額	2,153	2,055	2,002	1,914	1,983		
事業活動収入計	6,339	5,775	5,362	5,372	5,471		
事業活動支出計	5,414	5,548	5,081	5,108	5,189		

注)表示額は100万円未満を切り捨てているため、合計額は表示額の合計とは必ずしも一致しません。

学生数(5月1日現在):人	4,285	4,168	3,999	3,870	3,851
---------------	-------	-------	-------	-------	-------

## (3) 貸借対照表関係

(単位:百万円)

科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
固定資産	27,606	27,996	28,151	28,615	27,997
流動資産	4,317	4,364	4,357	4,132	4,812
資産の部合計	31,924	32,360	32,508	32,748	32,810
固定負債	3,209	3,398	3,272	3,162	3,008
流動負債	1,004	1,024	1,017	1,102	1,036
負債の部合計	4,213	4,423	4,289	4,265	4,045
基本金	25,557	25,882	26,216	26,568	26,781
繰越収支差額	2,153	2,055	2,002	1,914	1,983
純資産の部合計	27,710	27,937	28,219	28,483	28,764
負債及び純資産の部合計	31,924	32,360	32,508	32,748	32,810

注)表示額は100万円未満を切り捨てているため、合計額は表示額の合計とは必ずしも一致しません。

#### (4) 資金収支計算書関係比率

(単位:%)

比率名称	指標*1	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	他学平均*2
①教育活動資金収支差額比率	△	20.7	14.1	17.0	14.4	10.0	14.6

\*1指標:一般的な評価 (△:高い値が良い)

\*2他学平均:日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政(令和4年度版)」より文他複数学部大学139法人の平均

<比率の計算式>

①教育活動収支差額比率:教育活動資金収支差額/教育活動資金収入計

#### (5) 事業活動収支計算書関係比率

(単位:%)

比率名称	指標*1	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	他学平均*2
①人件費比率	▼	50.4	57.1	54.7	55.2	53.9	48.4
②人件費依存率	▼	67.7	72.7	66.9	70.3	69.9	59.4
③教育研究経費比率	△	27.4	29.7	31.1	30.8	32.2	34.8
④管理経費比率	▼	8.5	9.5	9.3	9.2	9.4	7.9
⑤事業活動収支差額比率	△	14.6	3.9	5.2	4.9	5.1	8.6
⑥基本金組入後収支比率	▼	88.3	101.8	101.2	101.8	99.5	99.3
⑦学生生徒等納付金比率	～	74.4	78.5	81.7	78.5	77.2	81.6

\*1指標:一般的な評価 (△:高い値が良い、▼:低い値が良い、～:どちらとも言えない)

\*2他学平均:日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政(令和4年度版)」より文他複数学部大学147校の平均

<比率の計算式>

①人件費比率:人件費/経常収入

②人件費依存率:人件費/学生生徒等納付金

③教育研究経費比率:教育研究経費/経常収入

④管理経費比率:管理経費/経常収入

⑤事業活動収支差額比率:基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入

⑥基本金組入後収支比率:事業活動支出/(事業活動収入-基本金組入額)

⑦学生生徒等納付金比率:学生生徒等納付金/経常収入

#### (6) 貸借対照表関係比率

(単位:%)

比率名称	指標*1	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	他学平均*2
①純資産構成比率	△	86.8	86.3	86.8	87.0	87.7	88.3
②固定比率	▼	99.6	100.2	99.8	100.5	97.3	96.5
③流動比率	△	430.1	426.1	428.4	374.7	464.2	263.9
④負債比率	▼	15.2	15.8	15.2	15.0	14.1	13.3
⑤退職給与引当特定資産保有率	△	87.3	91.4	98.7	100.0	100.0	73.2
⑥基本金比率	△	99.8	99.2	99.3	99.5	99.8	97.8

\*1指標:一般的な評価 (△:高い値が良い、▼:低い値が良い)

\*2他学平均:日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政(令和4年度版)」より文他複数学部大学139法人の平均

<比率の計算式>

①純資産構成比率:純資産/(負債+純資産)

②固定比率:固定資産/純資産

③流動比率:流動資産/流動負債

④負債比率:総負債/純資産

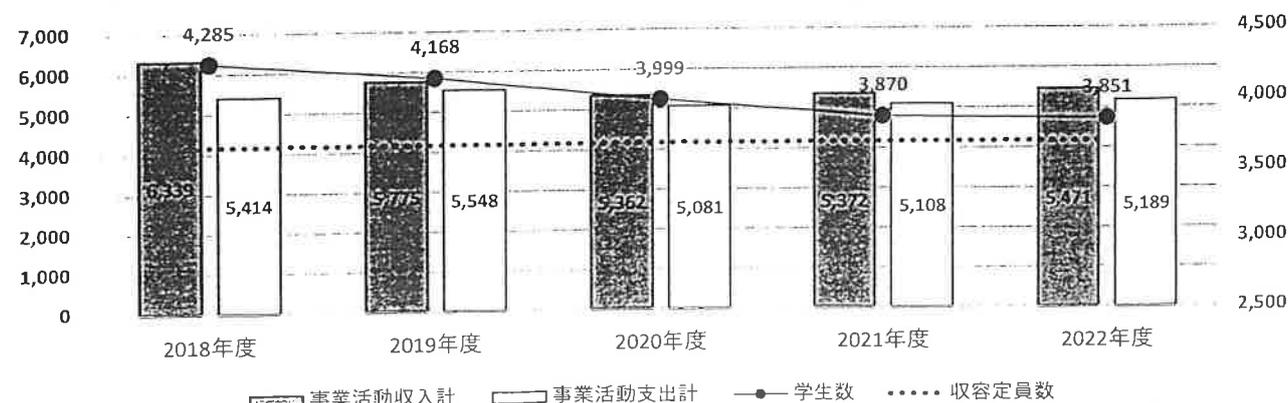
⑤退職給与引当特定資産保有率:退職給与引当特定資産/退職給与引当金

⑥基本金比率:基本金/基本金要組入額

#### 事業活動収支及び学生数の推移

(単位:百万円)

(単位:人)



### 3. その他

#### (1) 有価証券の状況

(単位:千円)

区分	帳簿価額	時価	差額
債券	14,089,651	13,716,182	△373,468
株式	45,015	59,091	14,075
投資信託	0	0	0
貸付信託	0	0	0
合計	14,134,667	13,775,273	△359,393
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	14,134,667		

注)表示額は千円未満を切り捨てているため、合計額又は差額は、表示額の合計又は差とは、必ずしも一致しません。

#### (2) 借入金の状況

借入金はありません。

#### (3) 学校債の状況

(単位:千円)

発行年度	利率	償還期限	残高
2019年度(第56回)	無利子	2023年6月	51,000
2021年度(第57回)	無利子	2023年6月～2025年6月	69,800
2022年度(第58回)	無利子	2024年6月～2026年6月	55,400
合計			176,200

注)表示額は千円未満を切り捨てているため、合計額は表示額の合計とは必ずしも一致しません。

#### (4) 外部資金(寄付金・受託研究費・共同研究費)の状況

(単位:千円)

外部資金	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
寄付金					
東京女子大学維持協会の	23,532	21,347	37,070	27,433	28,491
東京女子大学教育後援会	65,984	64,140	64,087	57,215	60,950
学校債振替寄付	(全額VERA募金へ)	3,733	5,030	3,670	2,585
VERA(創立100周年記念)募金	443,156	27,593	14,366	16,570	25,150
その他	3,030	83,816	24,626	25,672	42,287
寄付金計	535,703	200,630	145,180	130,561	159,464
科学研究費補助金	43件	35件	41件	39件	43件
科学研究費補助金計	68,900	77,675	88,075	58,000	56,750
受託研究費	6件	5件	4件	2件	4件
受託研究費計	50,515	38,478	20,405	9,098	4,092
共同研究費	1件	0件	1件	2件	2件
共同研究費計	540	0	2,200	3,980	2,550
合計	655,658	316,783	255,861	201,639	222,856

注)表示額は千円未満を切り捨てているため、合計額は表示額の合計とは必ずしも一致しません。

(参考)

東京女子大学教育後援会合計	65,984	64,140	64,087	57,215	60,950
---------------	--------	--------	--------	--------	--------

#### (5) 補助金の状況

(単位:千円)

補助金	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
経常費補助金	325,896	301,387	334,087	346,273	371,336
高等教育修学支援制度	-	-	85,753	98,513	96,404
その他	14,589	7,497	7,216	5,213	18,594
合計	340,485	308,884	427,056	449,999	486,335

注)表示額は千円未満を切り捨てているため、合計額は表示額の合計とは必ずしも一致しません。

#### (6) 収益事業の状況

収益事業はありません。

#### (7) 関連当事者との取引の状況

記載の対象となる取引はありません。

#### (8) 学校法人間取引

記載の対象となる取引はありません。

## (9) 経営状況および今後の課題

経常収支差額、基本金組入前当年度収支差額共、過去5年間黒字となっています。

しかし、本学の経常収入は、その8割弱が学生生徒等納付金であり、財務を安定させる上では、寄付金や科学研究費等の外部資金収入や補助金収入等、収入の多様化を図る必要があります。また、教育研究水準の維持向上に欠かせないキャンパス整備については、本学は長期設備改修計画を策定し、施設・設備の維持更新、快適な学習環境づくり、防災機能の強化を進めています。その実行を担保するため、必要資金の第2号基本金への計画的な繰り入れが必要です。

ポストコロナにおいても本学の教育環境を継続的に整備し、AI技術の急速な進歩等、変化の激しい時代に沿った新たな教育内容・方法、教育施策を行うため、今後とも入学志願者・入学者数の確保、財務比率の改善、収入構造の改善を図り、財政状態の向上、安定した経営基盤の実現に努めてまいります。